安平町立早来中学校再建事業基本計画（案）

自分が“世界”と出会う場所

～「みんなの学校」を目指して～

令和元年8月

安平町教育委員会事務局

早来中学校再建事業基本計画（案）

目　次

はじめに

１．新しい学校づくりの目標
　１－１．学校づくりの基本コンセプト　…1
　１－２．学校づくりの課題　…1

２．検討の経緯と教育的要求
　２－１．検討体制と状況　…2
　２－２．早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会_全体会、検討部会　…2
　２－３．新しい学校づくりを考える会（ワークショップ）　…6
　２－４．教職員検討会　…11

３.計画条件
　３－１．敷地条件　…14
　３－２．計画規模　…14
　３－３．事業スケジュール　…14

４．計画目標
　４－１．目指す学校像　…16
　４－２．施設計画の目標　…17
　４－３．ＩＣＴ環境のあり方　…18
　４－４．避難拠点のあり方　…19

５．基本計画
　５－１．各室・各ゾーンの考え方　…20
　５－２．室・面積構成表　…22
　５－３．施設構成の考え方　…23
　５－４．配置計画　…24

参考資料．安平町立早来中学校再建事業 調査資料

はじめに

平成30年９月６日、安平町は北海道胆振東部地震（震度６強）の被害に見舞われました。道路が歪み、多くの家屋が被害を受ける中、学校もまた大きな被害を受けました。

追分中学校は体育館の天井が落ち、追分小学校は校舎壁面のひび割れと多数の窓ガラスが割れました。中でも特に被害が大きかったのは早来中学校です。校舎床に亀裂が入り、体育館が損傷し、グラウンドは地盤そのものに被害が及びました。避難所となっている町民センターの２階、３階を仮校舎として一時的に使用した後、仮設校舎を建設しましたが校舎使用の復旧目処は経たず、新校舎の建設を決めました。

安平町はふるさと教育に力を入れています。町内すべての幼小中高にコミュニティ・スクールが設置され、地域が学校を支え、地域と学校が一体となって教育活動に取り組んでいます。AI(人工知能）やIoT(モノのインターネット）が発展し、社会が大きく変わろうとしていますが、人と人のつながりは決してなくなるものではありません。その一方、変わる社会で生きていく子ども達には次の社会で必要な知識や技術を身に付ける必要があります。

今回、被災した早来中学校の再建にあたり、平成31年１月より住民議論を重ね、令和元年６月からは合同学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を審議会として位置づけ検討を進めてきました。学校づくりに多くの住民が関わる機会を設けたのは、地域の学校としての想いを受け止めるとともに学校が学校文化だけではなく社会のニーズに合致した未来をつくる場所であってほしいという願いの表れでもあります。

住民参加のワークショップで生まれた『“自分”が世界と出会う場所～みんなの学校～』というコンセプトは、子どもを中心としながら、大人、高齢者まで一人ひとりが豊かに育ち学ぶ場所(マチ)を創りたいという思いが込められています。人は一生学び、一生育つものです。子どもだけでなく地域の人々も学校を通して多様な考えや価値と出会い、新たな世界(世界観)と出会っていくことで、震災を乗り越えた希望に満ちた安平町の未来像が描けると思います。

本計画では、被災により土地利用や敷地利用の制限がある中、早期の再建をより効率良くかつ効果的に進めるため老朽化した早来小学校と合わせた小中一体型の校舎を計画しています。今後の検討課題ではあるものの小中一貫教育の一つのかたちとして義務教育学校を目指しています。また、本計画では学校施設にテクノロジー(EdTech)を導入することも含まれています。これからの時代に対応した新しい学び、学校運営の効率化、新しい施設開放のあり方など、これまで学校で課題とされてきた部分がテクノロジーによって解決される新たな可能性です。

新しく建設される早来小学校・早来中学校が震災という困難を乗り越え、新たな可能性を含みながら安平町の豊かな自然や文化、人に触れ、地域と一体となった「みんなの学校」となるよう本計画をもとに今後の設計、建設へと進めていきたいと思います。

安平町教育委員会
（教育長　種田　直章）

１．新しい学校づくりの目標

１－１．学校づくりの基本コンセプト

安平町立早来中学校再建事業調査資料（平成 31 年 3 月　以下、調査資料）では、早来中学校再建に係る住民・保護者説明会や自由参加のワークショップ形式で行われた新しい学校を考える会、教職員や地域住民等を対象としたアンケートやヒヤリングなどを通して得られた意見・要望を踏まえ、次に再掲する新しい学校の基本コンセプトを掲げている。

新しい学校の基本コンセプト

『 自分が“世界”と出会う場所 』

安平町の
「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、
支え、支えられる中で、
学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」など
「異年齢、多世代」の人達、たくさんの「本物」と出会い、
さらに
「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」「夢」
と出会い、
“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

みんなの学校

コンセプトにある「自分」とは子どもたちのみを指すものではない。「世界」とは国外を指しているわけではない。地域とのつながりが深い安平町の学校の良さを大切に捉え、子どもたちだけではなく、地域の人々も多様な考えや価値を学び、新たな世界（世界観）と出会うことができる学校という想いが込められている。

人は一生学び、一生育つ。子どもたちも保護者も地域住民も、みんなにとって出会いが広がり、出会いによって人々がつながる学校を創りたい。

「自分が“世界”と出会う場所」というコンセプトは、子どもたちを中心として、高齢者を含む大人までもが豊かに学び育つ場所を創ることを目指すものである。

１－２．学校づくりの課題

調査資料では、新しい学校の基本コンセプト「自分が“世界”と出会う場所」に基づき、次に再掲する「学校づくりの課題」をまとめている。

学校づくりの課題

１ 多様性の中で豊かな社会性を育てる学校づくり
郷土の文化・自然・人々が創る多様な社会、「世界」と出会うことができる
地域住民・異学年・学校間・他国の子どもたちと交流・対話・協同学習ができる

２ 学ぶ意欲を喚起し、創造力を高める学校づくり
教科の魅力を生かせる、魅力的な教材・ICT・IoT を継続的に享受できる
本物と出会い、実社会とつながる学びを実現する

３ 子どもが主役となる学校づくり
個性に応じた学びの場、ともに高め合い、認め合える学びの場
子どもたちが、地域の一員、地域の主役として、町民とともに学び合える場

４ 小中 9 年間（幼保小中 15 年間）の確かな成長を支える学校づくり
成長段階に応じた学習環境、成長が実感できる生活環境
一人ひとりの学びの過程・記録を踏まえた学習支援（ICT の活用）

５ 居心地の良い、快適に過ごせる学校づくり
木材を生かした温かみのある校舎、落ち着けるスケール感、安心して過ごせる環境
多様な居場所がある・見つかる、地域住民や保護者の居場所・交流場所がある

６ まちのコミュニティセンターとなる学校づくり
学校の負担軽減を図り、地域住民が学校施設を大切に使いやすい環境
地域の安全をみんなで支える防災拠点・避難所

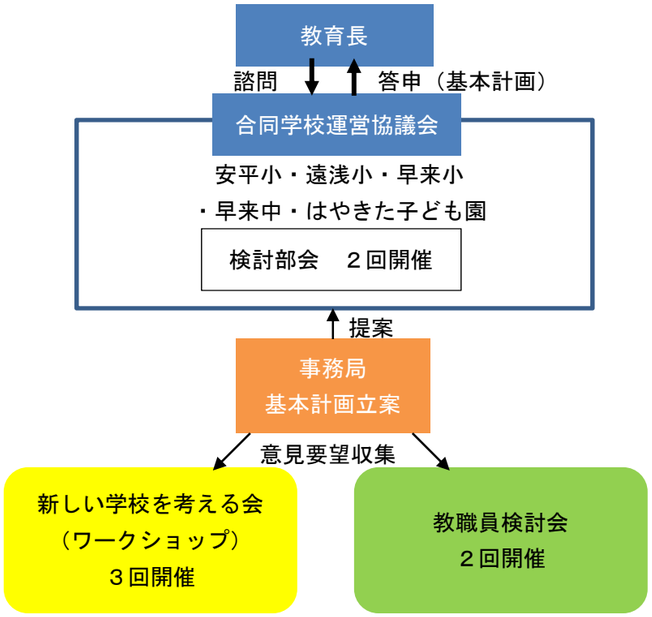
７ 「チーム学校」づくり－地域の子どもは地域で育てる
先生同士、保護者・地域住民・ボランティアと学校の連携・協働を支援する環境
教育と福祉が連携し、様々な児童生徒の成長を保証する環境

８ 安平町の未来を拓く学校づくり
インターネットや AI、自動制御などの技術を生かした新しい学びと学校運営・施設開放、学校間連携を支えるネットワークと映像システムの構築
永く愛され、大切に使い続ける長寿命な学び舎、そのための維持管理の仕組み
教育や社会の変化に対応できる施設環境

２．検討の経緯と教育的要求

２－１．検討体制と状況

安平町では、早来中学校再建に係る基本計画を策定するために、安平町町民参加基本条例に則り、関係する３小学校（安平小・遠浅小・早来小）と早来中学校、はやきた子ども園の学校運営協議会から成る「安平町早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会」を教育委員会の諮問委員会とした。また町民や学校関係者の意見・要望を広く確認するために、町民の自由参加が可能な「新しい学校を考える会」と３小学校と早来中学校の代表者で構成された教職員検討会を開催した。本章では、その検討の経緯と、意見・要望をまとめる。



図．検討体制

表．検討状況

	６月		７月	
合同運営協議会 全体会	第1回（6/5） 経緯説明、協議会の役割など			
合同運営協議会 検討部会		第1回（6/27） 事業計画など		第2回（7/22） 施設計画の目標 室・面積構成、配置計画など
新しい学校を 考える会	第1回（6/11） ワークショップ 「地域とつながる学校のあり方」		第2回（7/3） ワークショップ 「配置・平面計画の検討1」	第3回（7/30） ワークショップ 「配置・平面計画の検討2」
教職員検討会		第1回（6/24） 経緯説明など		第2回（7/22） 室・面積構成、配置計画など

２－２．早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会_全体会、検討部会

（１）第１回早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会_全体会（令和元年６月５日）

第１回早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会_全体会（以下、合同協議会）では、これまでの経緯と合同協議会の役割を説明し、学校施設計画の今日的な課題についてスライドレクチャーを行い、質疑応答を行った。その概要を示す。

委　員．今回、全ての学校運営協議会委員が呼ばれているが、今後も全員参加となるのか。
事務局．各学校の学校運営協議会から５名程度を選抜した検討部会を組織したい。
他に町民が参加できる新しい学校を考える会を改めて立ち上げ、ホームページで開催日時と議題を公表する。その他に教職員検討会等も実施する予定である。

委　員．建設事業が延びて改めて関心を持った人もいるし、地域住民より保護者が参加した方がよいのではないか。学校運営協議会でよいのか確認したい。
事務局．仮設校舎の早来中学校を早急に再建するために学校運営協議会を審議会としたい。

委　員．早来中学校の学校運営協議会委員が入れ替わる。検討部会の委員は中学校が決めればよいのか。
事務局．早来中学校で決めていただく。

委　員．中学校の再建は必要だが、遠浅小・安平小の学校選択制を先に検討する必要があるのではないか。
事務局．説明会を通して統合や学校選択制を希望するという保護者の意見が多くなっているが、慎重な検討が必要であるため、早急に再建しなければならない早来中学校の検討の場とは別の場で議論する。

委　員．第１回の検討部会までに部会委員を決めなくてはならないのか。
事務局．検討部会までに部会委員を決めることとなる。

委　員．今までの説明会は何人程度参加していたのか。
事務局．平均 20 名程度である。遠浅小・安平小の保護者が選択制のこともあって参加が多かった。各学校にもお願いをしながら、今後も進めていきたい。

（２）第１回早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会_検討部会（令和元年６月２７日）

第１回早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会_検討部会（以下、検討部会）では、部会長及び副会長を選出後、事業計画について次頁に示す資料を元に議論した。結果、一部の委員に反対意見はあったが、早来小学校の隣接地に小中一体型の校舎を建設することで了承を得た。意見交換の概要を次に示す。

委　員．早来中学校の再建が一番なので、早来中学校の再建のみを行うとすれば、義務教育学校

とするのかなどの検討なく進められるのではないか。

事務局．築43年の早来小学校の校舎改築または長寿命化改修の費用がいずれ掛かる。復興まちづくり計画としても、将来の町の負担を少なくするためには、公共施設マネジメントを検討していかなければならない。

委　員．工事予算で小中一体型校舎の改築が良いということで説明されたが相当な金額になると思う。総合計画に数字が反映されていなく、町の財政への影響が分からない。

事務局．総合計画に反映するためにも、校舎建設の計画をしないといけない。建設計画ができた段階で、財政計画とすり合わせていく必要がある。早来中学校の議論だけではなく、町の財政を検討するためにも、まずは計画を決めなければならない。

委　員．小中一体型校舎は、義務教育学校になるのか。

事務局．義務教育学校とすることは未定である。ただし小中一体型校舎が小中一貫教育を行うには効果的である。

委　員．小中一体型校舎は、義務教育学校前提のように聞こえてしまう。義務教育学校が本当に良いのか。（遠浅小、安平小と）教育格差が生まれそうだ。子ども、保護者、教職員に対しても不公平さがあるのではないか。

事務局．義務教育学校と校舎建設の議論は別である。

委　員．西側校舎案は、南側に山がある。工事は可能なのか。

事務局．技術的には建設できるが、校庭の南側に校舎ができるのはよくないなど計画的には課題がある。また建設中に校庭の制約を受ける可能性が高い。

計画アドバイザー．西側に校舎を建てる場合、敷地の広さに対して校舎が端に固まり、また丘の造成工事費が更に掛かる。また小川や湿地がある東側に校舎を建てることは、その環境を活かすことや、造成工事費を考慮すると考えにくい。今回の敷地条件では中央に校舎を建てることがよい。

今回の早来中学校の再建事業を機会として、小学校と中学校の改築を同時に行うことで良好な教育環境を整備するチャンスと捉えられる。

委　員．義務教育学校はいつ決まるのか。

事務局．秋頃になる。

委　員．小中一体型校舎にすると、敷地の中央に建物が配置され、絵のような形で建設されるのか。校庭側と湿地側に伸びた横長の校舎の方が敷地は有効に使えるのではないか。

事務局．図の配置案はあくまでも例示である。今後、幾つかの案を比較検討したい。

委　員．中央に校舎を配置する案は工事中に校庭が利用できるのか。

事務局．現状の早来小学校の校庭は使える。解体工事中に使えなくなることはない。

委　員．保護者の立場で言うと、これから仮設校舎で過ごすことになる小６の子どもたちにも１年間は何とか新校舎で過ごせるようにしてあげたい。これ以上遅れないようにしてほしい。校舎をまずは建てて、義務教育学校の是非については後でよいのではないか。

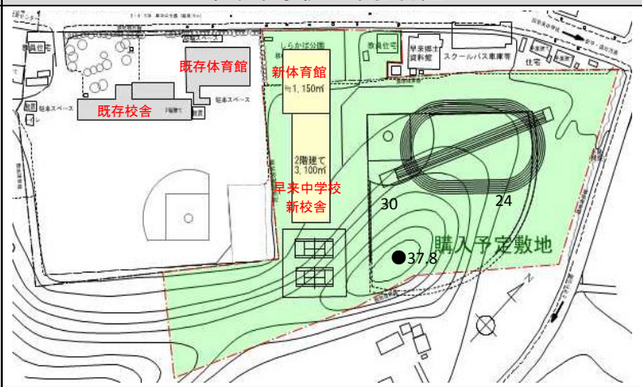
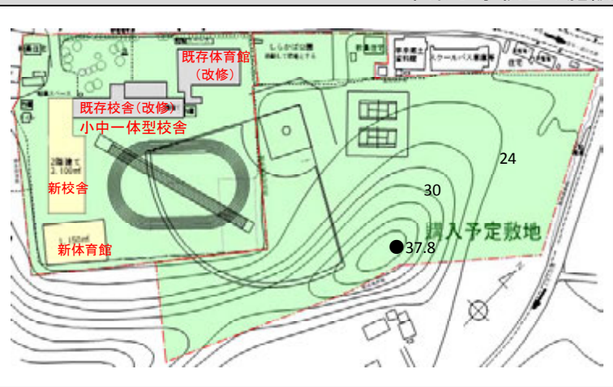
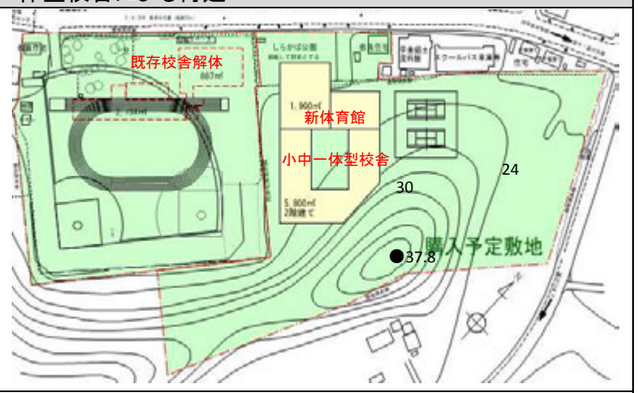
計画アドバイザー．校舎の位置は中央が最適と考える。そこに建つ建物形状や配置は次のステップで考えていく。豊かな学校となるように、そこの議論に時間を割いた方が良い。義務教育学校とすることは別として、施設計画としては小中一貫教育に取り組みやすい環境を課題として受け止めたい。

事務局．次回の新しい学校を考える会では、建物を敷地中央に配置し、小中一体型校舎とする内容で意見交換をすることとしてよろしいか。具体的にゾーニング（地域開放はどのあたりの配置が良いか、体育館はどのあたりの配置が良いかなど）の検討を行いたい。

会　長．早来中学校を早期再建することを目的とし、早来中学校・小学校を一体型校舎で改築する検討を進めていくことでよいか。

各委員．異議なし。（中学校２校の統合を理由として、一部の委員に反対意見あり）

表．早来中学校再建事業のタイプ比較

	早来中学校の単独再建	早来小学校との施設一体型校舎による再建	
配置計画の例			
事業内容	現早来小学校の隣接地に早来中学校を移転改築する	現早来小学校の校舎に増築して施設一体型の小中学校を整備する	現早来小学校の隣接地に施設一体型の小中学校を整備する
小中一貫教育と 施設計画	小学校と中学校の施設がそれぞれ別のため、日常的かつ柔軟な小中一貫教育活動は行いにくい。 校庭整備のために、大規模な造成工事が必要となる。また現在の自然環境が失われる。	既存校舎の配置や形状により、小中一貫教育に適した校舎の計画立案に制約を受ける。 校庭整備のために、大規模な造成工事が必要となる。	校舎全体を新たに整備できるため、小中一貫教育に適した計画が行える。
敷地面積	購入敷地27,459㎡	小学校校地（20,046㎡）+購入敷地（27,459㎡）＝47,505㎡	小学校校地（20,046㎡）+購入敷地（27,459㎡）＝47,505㎡
建物床面積	中学校整備面積 新校舎　約3,100㎡ 体育館　約1,150㎡	増築校舎　約3,100㎡　新体育館　約1,150㎡ 小学校既存校舎　2,734㎡　既存体育館　887㎡ 合計　5,834㎡　合計　2,034㎡	新校舎　約5,800㎡　新体育館　約1,900㎡
工事費試算	＜中学校＞新築工事 建設費19.5億円+土地整備他4.9億円 ＝24.4億円 ＜早来小学校（築43年）の施設を同時に更新する場合＞ 建て替え事業 14.7億円（5月8日安平町議会全員協議会資料3より） ※小中合計　24.4億円+14.7億円＝39.1億円 長寿命化改修 14.7億×60%≒8.9億 ※小中合計　24.4億円+8.9億円＝33.3億円 これに、中学校校庭整備に係る土地造成費が、上記の土地整備費とは別に掛かることが予想される。	＜小中一体型校舎＞ 増築工事（中学校新築工事） 建設費：19.5億円+土地整備他：4.9億円＝24.4億円 長寿命化改修工事（小学校既存施設） 14.7億円×60%≒8.9億円 ※合計　33.3億円 これに、中学校校庭整備に係る土地造成費が、上記の土地整備費とは別に掛かることが予想される。	＜小中一体型校舎＞ 新築工事 建設費：30.0億円（解体費込み）＋土地整備他：4.9億円 合計　34.9億円
建設工事期間の試算	＜中学校＞　新築工事　約1.5年 ＜小学校＞　建て替えの場合　約1.5年 長寿命化改修の場合　約1年 ※いずれも仮設校舎必要	増築工事　約1.5年 長寿命化改修工事　約1年 計2.5年	新築工事　約1.5年

※１　建物形状などは計画・設計に応じて変わる。また敷地測量を行っていないため、高低差など現況と多少異なる。
※２　長寿命化改修とは、施設を現在の教育的要求を踏まえて機能向上させる改修手法である。
＜条件（仮）＞新校舎：２階建想定　校庭：100m・200mトラック、野球場（両翼90m、センター110m）、テニスコート2面

（３）第２回早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会_検討部会（令和元年７月２２日）

７月 22 日に行われた第２回検討部会では、施設計画の目標、室・面積構成、配置計画などについて意見交換を行った。それぞれ検討案を示したが、それらの案は同日開かれた第２回教職員検討会及び第３回考える会で示した案と同様のものである。意見交換の様子を次に示す。

＜施設計画の目標について＞

事務局．施設計画の目標はどのような施設を整備していくかの目標である。

委　員．目標案に対しては近年の学校に必要な内容は網羅されているように感じる。ただ、表現が抽象的で意見しづらい。

事務局．誇りを感じられる校舎を考えるときに物や思い出・歴史等、残したい・大事にしたいものがあれば意見をいただきたい。施設計画の目標は、設計者へ安平町、早来地区の文化や歴史、大事にしていきたいものを伝えるためのものでもある。

委　員．中学校 2 年の時に早来中学校新校舎に入った。新しい校舎だったので、思い出というより新しい学校で過ごせたという事が大きい。

委　員．いこいの庭は同窓会で整備した。

会　長．地域利用について意見をもらう前に、現状どのような活動がされているのか説明を。

事務局．体育館をバレー・バスケット・一輪車等の体育団体に貸している。

委　員．学校の図書館を地域で利用できるようになるが、公民館の図書館がなくなるのか？

事務局．公民館は耐震化されていない。施設マネジメントとして検討していく必要がある。

委　員．図書室は昼間も開放するのか？

事務局．セキュリティや運営面での検討が必要であるが、昼間も開館する予定である。

会　長．教室や学習スペースについて意見はありますか？

事務局．検討部会の前に、教職員から学習環境については意見をもらった。地域利用について、学習することを第一に考えることを前提にするという意見があった。

委　員．防災面、避難について「施設計画の目標」に提示されないのか？

事務局．施設計画とは分けて、防災・避難を入れている。

会　長．「施設計画の目標」に入れた方が、設計に反映されやすそうなので、示した方がよい。

事務局．防災・避難は「施設計画の目標」に示すこととする。

＜配置・平面計画について＞

□各案の主な特徴

A 案．平屋・地域利用ゾーンが北側、教室ゾーンが南側で背中合わせになっている

B 案．2 階建て・大アリーナが奥

C 案．2 階建て・地域利用ゾーンと教室ゾーンが分かれている

D 案．3 階建て・地域利用ゾーンと教室ゾーンが階層で分かれている・駐車場が確保できる

事務局．どの案に決めるかではなく、検討を進めるための案である。気になる点や改善した方が良い点があれば、意見をもらいたい。

委　員．平屋のメリット・デメリットを説明してほしい。平屋はほかの子どもたちが移動したりして学習に集中できないのではないか。

事務局．平屋のメリットは、階段がないのでバリアフリーである。横長のため移動距離に関しては課題である。

委　員．グラウンドの環境が良くない。トラックと野球場が重なっている。

事務局．野球場やトラックの向き等を変える等、検討をする必要がある。利用については現状で早来中学校野球部が 4 人で、追分中学校と合同で練習しないと成立していない。使い勝手とは別に小中と練習なども考えられる。児童生徒数の推移などを基に検討をしていく。

委　員．陸上も少ないが、砲丸や長距離、幅跳びなどを個人で練習している。陸上環境も整えてほしい。

事務局．この敷地の中で、重なりを最小限にして整備をしていく。ときわ球場は復旧するので、部活や少年団の活動拠点についても検討が必要だ。

委　員．教科センター方式は中学校のホームルーム教室がないのか。

事務局．例えば、国語の教室が１－A のホームルームだったり、数学が２－A のホームルームだったりという考え方である。帰属性のある空間としてはホームベースが考えられる。教科教室とすることで、異学年にも学習や活動の成果がわかることと、教科指導の充実のために教職員が教材を用意できることもメリットである。学ぶ意欲を高めることを目指し、教科の魅力を伝える環境を整えることを目指す。

会　長．小学校・中学校の運営が変わることで、意識の切り替わりにもなって良いのではないか。

委　員．教室が 100 ㎡で 2 クラスは狭いのではないか。

事務局．児童生徒数を考慮すると、約 40 人を 20 人前後で 2 クラスになると想定している。

会　長．テニスコートの位置（道路側と山側）について意見はありますか？

委　員．中学校はソフトテニスなので、道路側にテニスコートとするときは、ボールが道路に出ると危ないので、フェンスを高くするなど対策が必要。

委　員．教職員住宅、トイレは既存のまま利用するのか。駐車場の面積はもっと必要ではないか。そうなると、駐車場は仮設校舎前として、グラウンドなどに活用したほうが良いのではないか。

会　長．アリーナ位置について意見はありますか？

事務局．新しい学校を考える会では、道路側は地域利用がしやすい、山側は防災面でグラウンドと連携しやすい、大きい建物が奥になれば学校の活動が道路から見やすい等の意見があった。

委　員．バスの乗り降はどう考えているのか確認したい。親の送迎の車もどこまで入れるのか教えてほしい。除雪場が分からないが、どこに想定しているのか。

事務局．スクールバスの乗降についてはアプローチ広場やバスロータリーを利用して行う。送迎についても駐車場位置などと検討していく。駐車場の除雪帯を基本計画に示し、設計者に伝えるものとしたい。屋根に雪を残すのか、落とすのか等も除雪の検討課題である。

委　員．地域開放が学校と明確に分かれていることと、地域開放が道路側で分かりやすいゾーニングがよい。

委　員．アプローチが現状と違う、信号の位置は移転されるのか

事務局．増設は難しいが、移動はできるので、アプローチが決まり次第、検討していく。

＜避難拠点の考え方＞

事務局．新しい学校を考える会で出た意見は、大きな体育館の中でプライバシーを確保すること

（授乳・更衣・ペットを連れてくるなど）が課題に上がった。

委　員．早来地区の避難所のメインは町民センターと早来小学校となるのか。

事務局．震災の状況よるが、学校の早期再開を目指すと長期の滞在はできないので、町民センターがメインとなる。一時的な避難所として震災直後の避難を想定している。

＜その他＞

委　員．事業の全体スケジュールを確認したい。

事務局．書面で提示する。9 月の議会までに基本計画を完了、3 月の議会までに基本設計が完了とする。

委　員．補助金の割合が学校をどう整備するかによって変わるという話があったので、知りたい。

事務局．基本計画の段階では出せないが、基本設計となれば具体的な数字で示せる。

委　員．いつまで検討会を行うのか、早来地区の学校なので他の地区は関係ないのではないか。

事務局．安平・遠浅地区の子どもは早来中学校に進学するので、関わる地域に声をかけた。8 月末には、この会では建設の意見が滞ってしまうので議論しないが、別に会を設け、学校選択制についても検討していく予定である。

２－３．新しい学校を考える会（ワークショップ）

（1）第１回新しい学校を考える会（令和元年６月１１日）

6 月 11 日に行われた第１回新しい学校を考える会では、これまでの経緯を説明した後、「地域とつながる学校のあり方」をテーマとして、地域開放利用の要求を把握するためにグループディスカッションを行った。その結果を次に示す。

早来中学校の再建について

・早来中学校の再建が第一であったのに、議論が義務教育学校や学校選択制になっていることが疑問である。
・地域開放をどうするかより、早来中学校の早期再建が第一であることに変わりない。
・安平町に小学校が何校も必要なのか。人口が減っていく中で、維持していくコストが多くなってしまうのではないか。
　子どもたちの将来に負担となってしまうのではないだろうか。
・小学校が統合した場合、自動運転のバスが導入されるのであれば、通学にも支障がないのではないか。

新しい学校の地域利用について

・足湯があるとよい。
・家庭科室を使ってみたい。
・お節介なおじちゃん・おばちゃんが増えたらいいな。
・高齢者が出入りしやすいサロン（特におじさんが）があるとよい。
・給食を食べに行きたい。
・地域の人が学校にいることでセキュリティになるのではないか。
・バス停などの利便性についても配慮できると、地域住民も活動しやすい学校となるのではないか。

安平町の教育資源について

・スポーツが盛んで長く続ける子が多い。
・ふるさと教育について他の地域から来た先生から評価されている。
・立地として空港が近く、自然が多い。
・今年のうまかまつりから、毎年行っていた小学生の鼓笛隊がなくなった。一生懸命練習しても発表の場が学芸会と運動会しかなくなってしまった。発表できる場ができるとよい。
・陶芸教室など住民の文化団体があるので、講師として、学校に来てもらう。
・屋外について（グラウンド・野球場）は早来中学校を整備すれば利用できるのではないか。安平町の全施設を網羅して活用できるシステムがあるとよい。
・馬の町として発展してきたが、まだまだ馬について知らない子どもたちも多い。

第１回新しい学校を考える会の様子

（2）第２回新しい学校を考える会（令和元年７月３日）

７月３日の第２回新しい学校を考える会は、模型を使って新しい校舎の配置や平面を検討するワークショップを行った。５グループに分かれて教室などのブロックを使い、どこに配置すればよいかというディスカッションをまとめて発表してもらった。

次頁にその結果を示す。

●目標

早来中学校と早来小学校の改築を施設一体型を想定して、学校施設の配置計画や各室の要望について議論し、アイデアを出し合い、課題を共有することを目指した。

●進め方

参加者を 5 グループに分け、次に示す諸室の配置とそれぞれのスペースの使い方について話し合った。そして話し合いの結果をグループごとに発表し、アイデアや課題について共有した。

●模型の色分け

・・・教室

・・・特別教室

・・・図書室

・・・管理諸室

・・・アリーナ

第２回新しい学校を考える会の様子
グループ毎にアイデアを発表

●グループごとの主な意見

グループ　A

＜地域開放＞

・地域開放される室の配置は道路側にあると利用しやすい。

＜建物配置＞

・小川・湿地まで活用した横長の校舎とすることで、敷地を有効活用し、グラウンドを広く取りたい。

・屋外通路は冬は寒いので、内部通路としたい。通路の幅は、通りやすいように大きくしてほしい。

＜グラウンド＞

・小学生と中学生が同時に利用する場合は、野球場の重なりが危ないので、グラウンドの広さを確保したい。

＜教室＞

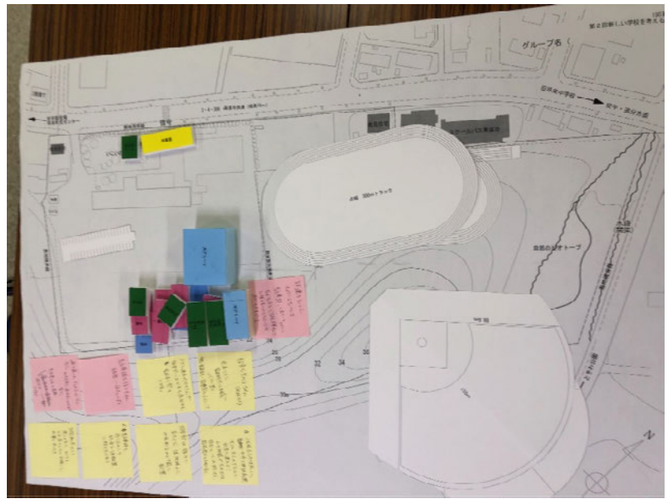
・小学生と中学生の時間割の違いや、音の環境に考慮が必要である。小学校のまとまりと、中学校のまとまりで分けて共有の場所でつなぐなど。

・道路側に教室が配置されると、交通量にもよるが、音が気になりそうだ。

＜学校運営＞

・児童・生徒が授業で使っているときに、地域開放はできないと思う。運営方法の検討が必要だ。

グループ　B



＜地域開放＞

・スポーツが盛んなので、地域住民も利用できる場所（グラウンド・体育館・更衣室等）がほしい。

・家庭科室や図書室が多目的ホールの近くにあって利用できるなど、ママ会ができる場所がほしい。

・多目的ホールを利用して、給食を食べたい。児童・生徒とも交流できるような場所になるとよい。

＜建物配置＞

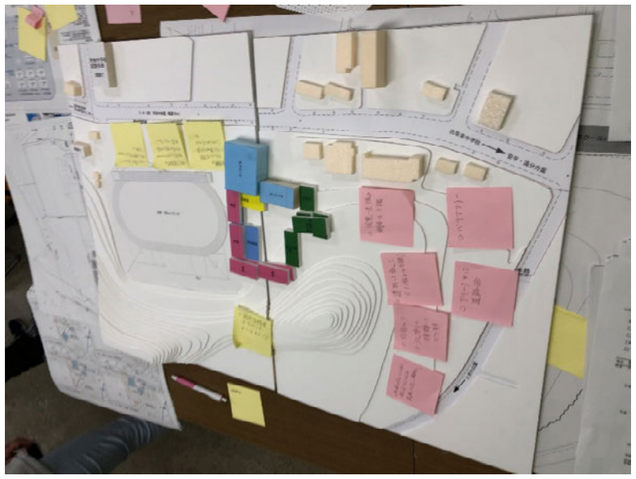
・外部の通り庭は寒く、デッドスペースになりそうでもったいない。

・3 階建てにして、建物をコンパクトに計画すれば、グラウンドが広く確保できてよい。

＜グラウンド＞

・建物をコンパクトにすることで敷地に余裕ができる。駐車場を広く取ったり、グラウンドに余裕ができるなど、敷地の有効利用の可能性を残せるのではないか。

グループ　C



＜地域開放＞
・地域利用できる場所は道路側のほうが利用しやすい。
・アリーナが道路側にあれば、地域住民も利用しやすい。
＜建物配置＞
・アリーナはカラッとした空気になるような配置がよい。じめじめした体育館は嫌だ。
＜グラウンド＞
・トラック 300mは必須である。
・テニスコートは早来中学校に３面あったので、3～4 面ほしい。
＜室構成＞
・多目的ホールの近くに家庭科室があると、利用しやすい。
・特別支援教室は普通教室の近くがよい。サロン的にみんなが使える。
・バリアフリーに考慮して。特別支援教室は昇降口の近くがよい。
・大・中アリーナはつながっていた方が更衣室やトイレなどをまとめて配置できる。
・管理諸室は防犯上、1 階がよい。
＜児童館・学童・放課後子ども教室の利用＞
・児童館・学童・放課後子ども教室でも学校で活動できる場所がほしい。

グループ　D

＜地域開放＞
・地域利用できるスペース、特に図書館は年配でも入りやすい場所にしてほしい。
＜建物配置＞
・アリーナが道路側にあると圧迫感がある。
・自然を残し、自然を感じたい。小学生などは理科でもこの敷地の環境を活用できるのではないか。探検してほしい。
＜室構成＞
・職員室は不審者対策として視認性のある場所がよい。
・小学生の教室と、中学校の教室は分けた方がよい。震災で早来中学校生徒が、早来小学校で授業を受けていた際に、うるさい等の支障があった。
・特別支援ではガラッと環境が変わると、心理的に不安になるので、変わらない環境を用意するなど配慮が必要である。
・体育館の更衣室と教室の移動時間を考えると、近くにあったほうがよい。
・大・中アリーナの 2 つを近くにすれば、更衣室やトイレが共通で利用できる。暖房効率もよいのではないか。

グループ　E

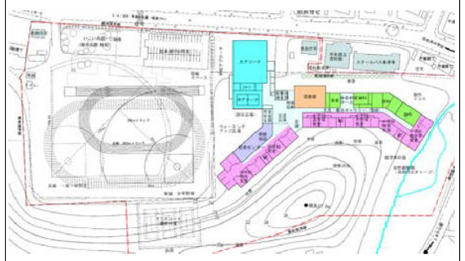
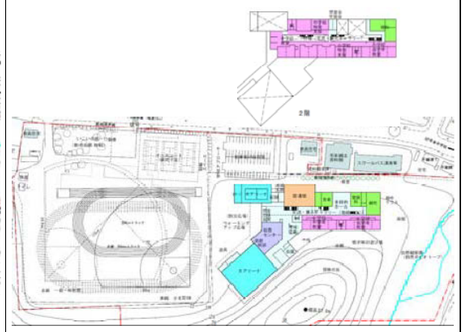
＜地域開放＞
・地域住民が利用しやすいように、アリーナは道路側がよい。
・図書室の近くにカフェがほしい。
＜建物配置＞
・建物をコの字型にして、バスロータリーとし、2 階の図書室の下に車庫や備蓄庫を配置した。
・震災時は防災広場としてバスロータリーが使える。
・震災の時に家庭科室で炊き出しや多目的室が避難所となるので、避難生活が少しでも快適となるような配置がよい。
・裏山に抜けられる動線を確保したい。
・学童でも利用しやすいような配置がよい。
＜グラウンド＞
・200mトラックは野球場を使っていても利用できるような配置がよい。
＜室構成＞
・アリーナと教室を離したほうが、音が聞こえないので勉強に集中できる。
・アリーナにギャラリーがほしい。

（２）第３回新しい学校を考える会（令和元年７月３０日）

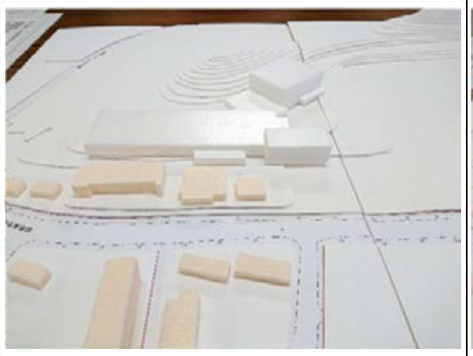
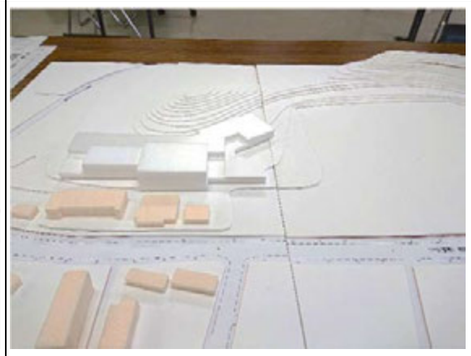
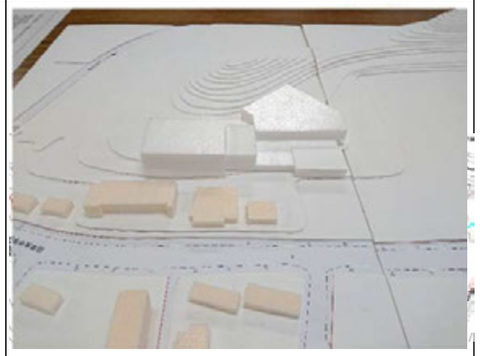
第３回考える会では、前回の意見を踏まえて配置を検討した計画案４案（平屋建て案、２階建て２案、３階建て案）を図面と模型で示し、グループディスカッションで意見を抽出した。

検討案のタイプと前回意見の反映した事項を以下に示す。また次頁に案についての意見を示す。意見を大切に受け止めるとともに、学校建築計画の今日的課題を踏まえた計画設計を行う必要がある。

表．第２回考える会の主な意見と検討案への反映

配置計画案			A案	B案	C案	D案
凡例 →普通教室 →特別教室 →アリーナ →図書館 →校務ｾﾝﾀｰ →廊下等、その他						
階数			平屋建て	2階建て	2階建て	3階建て
第2回考える会の主な意見と意見反映	地域連携施設開放	主な意見	①地域利用できる場所は道路側のほうが利用しやすい。 ②家庭科室や多目的ホールなども利用したい。地域の会議室がほしい。陶芸教室など文化団体があるので、講師として来てもらうことで交流ができる。 ③児童・生徒とも交流できるような場所がほしい。 ④安平町の全公共施設を網羅して活用できるシステムがあるとよい。 ⑤バス停などの利便性についても配慮できると、地域住民も活動しやすい。			
		意見反映	①地域開放可能な施設を道路側に配置した。	①道路側の圧迫感を低減するため大アリーナを丘側に配置した。	①地域開放可能な施設を道路側に配置した。	
			②家庭科室や多目的ホール、創作アトリエ、音楽室などの特別教室や会議室を地域開放しやすい１階に配置した。			
			③多目的ホールや地域協働スペースを学校と地域の交流スペースと位置付けた。また特別教室前の通路もゆとりを持たせて交流スペースとした。			
	アプローチ	主な意見	①「学校の顔」となる室が道路側にあるとよい。　②バスロータリーがあるとよい。　②保護者の送迎をしやすくしてほしい。			
		意見反映	①学校の顔となるアプローチに面して学校図書館などの地域開放施設を配置した。			
			②駐車台数を減らすことができれば、バスロータリーは可能。			②駐車場をバスロータリーとした。
	敷地特性・気候風土への対応	主な意見	①自然を残し、自然を感じたい。子どもたちに探検してほしい。 ②裏山に抜けられる動線を確保したい。 ③屋外通路は冬は寒いので、内部通路としたい。 ③冬季は寒いので、快適に過ごせるように断熱や空調を整備してほしい。 ④除雪の雪溜め場所、屋根の雪下ろしなど計画が必要である。			
		意見反映	①既存の小川や丘に、教室や特別教室を面した配置とした。　②地域玄関から丘に開いたスペースまで視線が通るように配置した。　③外壁面を減らした中廊下形式のコンパクトな構成とすることで、熱環境の負荷低減を図る案とした。 ④校庭側に除雪スペースを確保しやすいアプローチとした。			
	小中一体型校舎	主な意見	①小中学校の時間割の違いを踏まえて音環境等に配慮が必要である。　②小中学校で共用する場所も成長段階に応じて使いやすくしてほしい。			
		意見反映	①小学校と中学校の教室ゾーンを分けた配置とした。　②理科室など、授業時数の多い教室は小学校と中学校で分けました。 ③音楽室と多目的ホールを組み合わせ、多目的ホールでも音楽の授業が行いやすいようにした。			
	特別支援、相談スペース	主な意見	①特別支援教室はバリアフリーに考慮して、計画してほしい。 ①特別支援教室はサロン的にみんなが使えるようにしてほしい。 ②教室以外に先生と保護者、先生と子どもなど話しづらいことも話し合いがしやすいような場がほしい。			
		意見反映	①特別支援学級は、普通学級と行き来しやすい配置とした。			
	交流の場、発表の場	主な意見	①鼓笛隊等の発表ができる場、イベントができる場があるとよい。　①学習成果を発信できる空間があるとよい。　①交流の場となる空間があるとよい。			
		意見反映	①中アリーナにステージを設けて講堂として利用できるようにした。　①音楽室や家庭科室と多目的ホールを組み合わせることで、発表や食育などの交流活動が行いやすいようにしました。			
	学校図書館	主な意見	①蔵書を充実できるとよい。　②カフェがあるなど居心地の良い図書館がよい。			
		意見反映	①蔵書冊数を充実し、ゆとりある読書スペースが確保できる図書館面積を用意した。			
	体育館	主な意見	①アリーナと教室を離したほうが、音が聞こえないので学習に集中できる。 ②更衣室やトイレが必要。 ③じめじめした体育館は嫌なので、配置や設備を工夫してほしい。 ④公式戦ができる広さの確保。 ⑤アリーナにギャラリーがほしい。			
		意見反映	①体育館と教室ゾーンを分けた配置とした。		①吹き抜けで体育館に一部の教室ゾーンが面している。	①体育館と教室ゾーンを分けた配置とした。
			②更衣室やトイレを体育館の構成に確保しました。			
	屋外運動施設	主な意見	①トラックは300mが必須である。　②テニスコートは早来中学校に元々3面あったので、3～4面はほしい。　③トラックや野球場の重なりがないようにしてほしい。			
		意見反映	①300mトラックが敷ける広さを確保した。　②テニスコートを3面確保できるように検討した。　③野球場のダイヤモンドと200mトラックは重ならないようにした。			
	防犯対策	主な意見	①管理諸室の配置は防犯を考慮した配置がよい。　②地域の人が学校にいることで防犯対策になるのではないか。			
		意見反映	①校務センターはアプローチの視認性など全体を把握しやすい場所に配置した。			
	避難場所・避難所	主な意見	①避難時にはアリーナのほかに多目的室でも過せるようにしてほしい。 ①家庭科室で炊出しできるようにしてほしい。 ②ビックルーフのように半屋外の天気の影響なく活動できる場があるとよい。 ②防災広場が必要である。 ③避難生活が少しでも快適となるような工夫をしてほしい。 ④最低限の暖房と照明が必要である。 ⑤夜間利用を想定した効率の良い発電システムがあるとよい。 ⑥プライバシーを確保できる場所も用意してほしい。			
		意見反映	①多目的ホールや家庭科室などの地域開放施設を体育館のまわりに配置し、避難時に利用しやすいようにした。　②地域玄関もしくは児童生徒玄関の前に広場を配置した。			

表．第３回考える会の主な意見

配置計画案		A案	B案	C案	D案
凡例 →普通教室 →特別教室 →アリーナ →図書館 →校務ｾﾝﾀｰ →廊下等、その他					
階数		平屋建て	2階建て	2階建て	3階建て
主な意見	各案	・階段がないのでバリアフリーだ。 ・災害時校庭へ避難しやすそう。 ・いろいろな活動が見えやすそうで良いが、子どもたちには学習の障害になるのではないか。地域利用ゾーンと学校ゾーンを分ける必要がある。 ・防音に配慮してほしい。 ・平屋の横長で移動が大変そう。 ・学年が上がると教室が上階になったり景色が変わったりしないと成長を感じられないのではないか。 ・低学年が奥にあるのは職員室や校庭から遠い。避難経路としても良くないのではないか。	・学校の顔を図書館にしたいので、中アリーナと図書館が逆の配置がよい。 ・テニスコートが道路側で活動が見やすそう。 ・大アリーナと中アリーナは近いほうが更衣室やトイレ、部室などの機能も近くなるのではないか。 ・吹き抜けが開放的でよい。ただし安全を確保してほしい。	・図書館とアリーナが顔になっていてよい。 ・地域ゾーンと学校ゾーンが明確に分かれていてよい。	・重厚すぎる。狭い敷地ではないので、3階じゃなくてもよいのではないか。 ・3階建てでコンパクトな平面ならば、グラウンドをもっと広く利用できるのではないか。テニスコートを移動し小川側に建物を移動するなど。 ・休み時間に校庭で遊んだ後や体育の後に3階に戻るのは疲れる。 ・バリアフリー面でエレベーターが必要。 ・テニスコートが遠い。テニス部だけ遠いのは、活動が見えないので良くないのではないか。 ・保健室と相談室が交流広場に面しているのは、行きづらい。
	共通	**＜学校運営＞** ・小中学生が共同で使う室に対して運営の配慮が必要。 ・特別支援学級の学習や進度別学習が行いやすい設えにしてほしい。 ・特別支援学級は1階としたほうがよい。 ・中学校はホームルームや自分専用の机があったほうが良い。 ・静かに勉強に集中できる個室がほしい。 ・職員室はグラウンドと駐車場に面しているほうが防犯上よいのではないか。 **＜リラックスできる場所＞** ・景色を生かしてリラックスできる場所を計画してほしい。 ・ハンモックなどでリラックス、落ち着ける場所がほしい。 **＜アプローチ＞** ・バスロータリーがよい、現状は路駐で危ない。 **＜図書館＞** ・図書館は借りるだけではなく、リラックスして閲覧できるスペースがほしい。 **＜部活動・スポーツ＞** ・体育館にテニスコート用のポールが建てられるようにしてほしい。 ・部活動や地域の人がランニングやウォーキングができる体育施設を計画してほしい。 ・部室がほしい。 ・屋上に芝を敷いて、テニスやフットサルができるコートがあるとよい。 ・グラウンドの水はけが悪いので、水はけが良くなる排水計画にしてほしい。 **＜地域利用＞** ・地域が利用しやすい立ち寄りやすい場所。 ・自販機などを置き、地域の人が多目的に使える場があるとよい。			
	ICT環境	・学習環境のICTを整えるのはもちろん、教職員がICTで働きやすい環境になるとよい。			
	避難施設	・避難所物資の運搬動線を確保してほしい。			

２－４．教職員検討会

教職員検討会は基本計画期間中に２回開催した。教職員との意見交換の場はこれがスタートとなったため、事業計画などの共通理解のために、今後の設計段階においても継続的に検討会を開き、教育的要求を把握すると共に、これからの教育のあり方について共に理解を深めていくことが求められる。

（1）第１回教職員検討会（令和元年６月２４日）

第１回教職員検討会（以下、検討会）では、その設置目的と基本コンセプト、学校づくりの課題と、先進校事例の説明後、グループ毎に質問・意見をまとめてもらった。それらを次に示す。

初回ということで、検討会の負担感や事業計画の周知方法などについての疑問点や、耐震性など当然確保しなければならない意見もあった。

事業計画について

・1月の広報で義務教育学校となることを知った。義務教育学校について校長に確認しても、詳しい情報は知らないと言われた。いつの段階で、義務教育学校になったのか。義務教育学校について反対の意見も出してよいのか。
・調査資料の事業の組み立てでは、中学校単体の再建か、小中学校一体化での再建か決まっていない内容だが、その内容を飛ばして先進事例についての感想や意見を、今回は話し合うということなのか？
・今回の教職員検討会に期待していたのは、事業費、工期、造成の目途はあるのかないのか等の事業内容である。
・合同学校運営協議会で、義務教育学校や学校選択制についてどうなるかは決まっていない。決定する前に教職員に意見を聞くことはないのか？

教職員検討会について

・早来小学校で過ごしている中で校舎の課題は見つかるが、先進事例のような未来的な学校を考えることや、考えを述べることは難しい。
・集まる目的をはっきりしてほしい。教職員検討会のために忙しい中、時間を割いて参加している。このような会を教職員が集まって行う必要があるのか。以前、アンケートに答えたが、それだけでは不十分な内容だったのか。
・教職員検討会に参加している先生の負担を考えるべきだ。

先進校事例について

・全国の先進事例を見たが、教科教室型を実現した後の、集団形成での良い効果や学力向上があったのか？または課題はあったのか確認したい。
・学習面での効果を得るには、指導も変わらなくてはいけないのではないか。

教育・学校運営について

・「中１ギャップ」が上に上がっていくだけではないのか。
　「高１ギャップ」取り戻しがつかなくなるのではないか。
・中１ギャップは今のところ少ない。
・小中の時間割は今でも割り振りが大変なので、大丈夫でしょうか。
・制服についても今後考える予定ですか。
・現在、中学校では遠浅小・安平小からの生徒が来ることで人間関係が良くなっている。
・転入生・転出生のつなぎ教育の保障はあるのか。
・人間関係は今でもずっと固定化していて、さらに窮屈になる人が出そうで心配。
・部活で学校選択制を考える親が多いのではないか。
・IoT や ICT を取り入れるにあたって、詳しい人が常に配置できるのか。

学校施設について

・耐震は確保されるのか。
・いろいろな施設がありすぎて、自閉症の子にとって問題はないのか。
・令和４年度に中学生は２クラス、特別支援は３クラスの場所の確保が必要。
・校内教室・廊下・壁面・天井など、いたるところにホワイトボード・ICT 機器・プロジェクター・タブレット・デジタル教材等が活用できる場がある。
・高速 Wi-Fi と、それに対応した性能を有する PC・タブレット、メモリや処理能力もあるもの。
・省エネ・グリーンカーテン。　・床暖・床・壁・パイプ　冷暖房循環。
・特別支援学級　個室・小ホール・プレイルーム・シャワールームが必要。
・図工室・理科室・家庭科室など特別教室の充実。
・フリースペース、オープンスペース。　・2アリーナ（大・中）。
・トレーニングルーム。　・広い図書館、くつろげるスペース。
・体育館明るく、２つは必要。　・クーラーは設置されるのか。

管理諸室について

・職員室、保健室は１階がよい。
・職員室が廊下から見えるのは、業務に支障あり。
（評価や採点、個別の支援計画作成など、個人情報を多く扱う場所なので）
・職員室のガラス張りは、テスト作成の時どうするのですか。
　追分中学校では常時カーテンをつけている。

地域開放について

・安全性の確保の仕方を明確にしてほしい。
・授業中に人の出入りがあると、落ち着きが失われる。
（ADHD の子など）スペースは分けるべき。
・清掃は生徒が行うのか。地域開放があると時間的に無理なのでは。
・各スペース（特別教室）の割り振りを教員がするのか。
業務が増え、働き方改革に反する。
・図書室も地域開放するなら、管理者を常駐させる必要がある。
・地域開放は授業時間中だと、調整する人が大変。
・学校施設内に、プール・公民館・里山・グラウンド・ジム・道場・図書館等を併設。（バスでの移動が必要なくなる、町民利用・活用）

敷地について

・敷地はどこから、どこまでなのか。体育館・テニスコート・トラック（300m）野球グラウンドは確保できるのか。（校舎が盛りだくさんだが）

オープンスペース

・音がお互いに邪魔になる。ADHD の子には、かなり辛い。診断はされていなくても、その傾向がある子は現状で少なくない。
・空調に問題がある。寒かったり、乾燥したりするので、温度・湿度の管理ができるように。
・オープンスペースは寒い。

その他

・備品まで予算があるのか。　　・虫が困る
・床暖は寒い。

（２）第２回教職員検討会（令和元年７月２２日）

７月２２日に行われた第２回検討会では、施設計画の目標や配置検討案、運営方式、ICT などについて提案資料に基づき意見を伺った。配置検討案については、第２回検討部会及び第３回考える会で示した資料と同様の資料である。

これらの意見は受け止めながら、今後も継続的に意見交換を進め、疑問点や不安点、誤解などを解いた上で、安平町が目指す教育について理解を求め、その教育を実現できる学校施設づくりを議論する必要がある。

■施設計画の目標について

・施設目標に関してアプローチに「町民」というワードではなく、「保護者」にするべき。

■運営方式（教科センター方式）について

・教科専用教室はありがたい。
・指導のしやすさが失われるのであれば、革新的なことは入れる必要はない。
＜ホームルーム・ホームベースについて＞
・ホームルームをする場所をどのように確保するのか？学級の文化ができる環境づくりが重要である。
・ホームルーム教室と教科教室が確保されるのであればよい。
・ホームベースの使用方法が見えない。
＜教科センター方式での給食について＞
・特別教室で食べるのか？ランチルームを作るのか？給食指導ができるのか？
・たまには違う空間で食べることも良い。給食のシステム自体も見直す必要があるのかも。

■配置検討案について

＜階数について＞
・平屋は理想的ではあるが、移動距離が遠い等、教室配置を考慮する必要がある。
・平屋であれば、屋上が使えるようにならないか。
・3 階建ては、小中学校のフロアで分かれているので、今まで通りの運営ができそう。
・3 階建ての駐車スペースが多いことは魅力的だ。
・複層階となるのであれば、エレベーターをつけてほしい。病人の移動等に必要となる。
＜教室・教室まわり＞
・少人数指導が行える学習教室が必要である。
・教室がギチギチ。余裕のある教室配置を。
・教材室が必要である。
・オープンスペースと教室との仕切りは暖房効率や音の環境のためにほしい。間仕切りがガラス張りなどで見えるのは落ち着かない。
・他のクラスの児童生徒の移動が見えると子どもたちは落ち着かない、授業に集中できないのではないか。
・自由に授業展開ができる場（教室やスペース）があるとよい。
・小学校低学年の教室が奥にあると昇降口からの移動が大変、職員室から遠い、避難しづらい

という課題がある。

＜特別支援教室＞

・プレイルームなど自由なスペースが必要。

・特別支援教室は可動式の壁が良い。作業室・交流スペース、障害の程度、学園・進路の違いに対応できるように。

・特別支援教室は 20 ㎡が 3 室だけだと、授業で作業を多く行うので狭い。作業スペースが必要である。

＜図書室＞

・PC 室と図書館は分けた方が良い。

・授業でも図書館を利用しているので、地域の人たちがいると、静かにしないといけないなどの制約ができそうなので不安である。

＜特別教室＞

・特別教室の数は 1 つで小中学校共用となるのか？日課のズレを考えた時に全ての活動教室は２つずつ必要である。（小学校は中休みがあるが、中学校にはないなど）

・音楽室・創作ルーム・家庭科室は小中の体格差を考えると 2 つ必要である。机や椅子のサイズが絶対にあわない。

・家庭科室は調理室と被服室の 2 つに分けたい。

＜アリーナ＞

・大アリーナの取り合いにならないか？大アリーナが 2 つ必要なのでは？

・体育館のトイレは多くほしい。避難で利用するときにも必要である。

・アリーナの運営はどうするのか。現状、小中学校で体育館は取り合いになっている。大アリーナが中学校、中アリーナが小学校という使い方であるなら、中アリーナが小さい。

＜多目的スペース＞

・ランチルーム等の多目的に使えるスペースがほしい。床に給食などをこぼしても拭き取りやすいような仕上げで、机椅子も可動式がよい。

・合唱練習や集会など様々な利用で、体育館に準ずる室として使いたい。

＜職員室＞

・防犯を考えたとき、職員室は 2 階が良いのではないか。

・職員の休憩スペースは必要ない。

・ミーティングなどのスペースがあるのはよい。校務が効率化する。

・できれば職員コモンのスペースを増やせると良いのかもしれない。仕切りすぎず、なんとなくミーティングしている様子が見えるようにしたい。

・校長室や職員室は１つなのか。→職員室は１つ、管理職の室は未定である。（事務局）

＜保健室＞

・保健室横の相談室は廊下から出入りできるように。

・保健室に足洗い場がほしい。出入口が 2 か所、外部にいけるドア、寝ているところに話が聞こえないようなスペースがほしい。

・保健室内の設計は相談してほしい。

・保健室はもう少し広さがほしい。カーテンで仕切って利用できるなど。

＜トイレ＞

・トイレの数が少ない。中学校には 2 か所必要である。手洗い場はどこになるのか。

・2 学年に 1 か所程度はトイレが必要である。

＜校庭・駐車場等の外部＞

・外に部室と水道の確保、陸上は器具庫が必要である。

・駐車場は教職員だけで埋まってしまいそうである。（小学校 22 名+中学校 20 名）

・テニスコートが山側にあるのは危険である。（動物など）

＜交流の場＞

・異学年交流ができる場所がほしい。

＜地域開放＞

・開放のときの管理者は誰が行うのか？学校管理と地域開放管理はうまく分けられるのか。

・夜間の地域利用の際に、開放される室以外の教室へ行けないようなセキュリティが必要である。

・特別教室の地域開放は週末のみがよい。授業利用は 1 週間前に決めているので、地域利用のために 1 か月前に授業利用日を決めるとなると厳しい。

・地域開放される場所はどの室がメインとなるのか。子どもが落ち着いて学習できる環境を整えるためにも、どこがメインとしてどのような運営で開放されるのかが知りたい。

＜その他＞

・維持費も検討してほしい。（業者がワックスをかけるなど）

・相談室は狭くても 2 つは必要である。小中学校で利用が重なる可能性がある。

・チャイムは小中学校でどうするのか。

・場所（教室）ありきの時間割構成になりそう。自由度が減る心配がある。

・机やいすなどの備品も新しいものにしてほしい。

■ICT・IoT 環境の考え方について

・タブレットと PC は生徒数×0.4 必要である。

・TV のリモコン操作のレベルで ICT 操作ができるようなシステムがよい。

・使いやすい校務システムはあるのか、事例を知りたい。

３.計画条件

３－１．敷地条件

本計画は、早来小学校の隣接地を学校用地とし、既存の早来小学校敷地と合わせて小中一体型の学校施設を整備するものである。敷地条件を次に示す。

（１）位置
北海道勇払郡安平町早来大町 159 番地ほか

（２）敷地面積
52,780 ㎡（今後実施する測量調査により確定される予定）

（３）地域地区等
〇159 番地（早来小学校敷地）・160-1 番地・160-2 番地（しらかば公園地）
・市街化区域
・第一種中高層住居専用地域　建ぺい率．60％　容積率．200％
・日影規制　４時間・２．５時間（測定高さ 4m）
注）街区公園である「しらかば公園」は移転する。
〇169-1 番地・170-1 番地（新学校用地）
・市街化調整区域
・建ぺい率．60％　容積率．100％
・日影規制　指定なし

（４）接続道路
早来中央通（都市計画道路 3・4・306　幅員 18m　拡幅済）

（５）都市設備
上水道．早来中央通より接続　下水道．早来中央通より接続
ガ　ス．LPG

（６）地盤状況
・調査未。設計段階で地盤調査を行う。

（７）その他
・新学校用地内の北東側には自然の水路、南側には丘状の起伏がある
・北東側の隣地境界線は河川用地に接している

次頁に敷地現況図を示す。

３－２．計画規模

（１）計画学級数
本計画の学級数を次の通りに定める。

小学校　普通学級６　特別支援学級３
中学校　普通学級３　特別支援学級３

ただし、学級増に対応できる計画とする。

（２）補助基準面積
計画学級数に基づく国庫補助基準面積を次に示す。

小学校
校舎 3,260 ㎡（１級積雪寒冷地　多目的加算なし）　体育館 922 ㎡（積雪寒冷地）
中学校
校舎 2,846 ㎡（１級積雪寒冷地　多目的加算なし）　体育館 1,162 ㎡（積雪寒冷地）

（３）計画面積
国庫補助基準面積を踏まえるとともに、施設一体型の学校施設とすることによる面積の効率化を図ることを考慮して、校舎等の計画面積を次のように設定する。

校舎 5,300 ㎡　体育館 1,900 ㎡

なお、基本設計において、建設市況を調査し再検討するものとする。

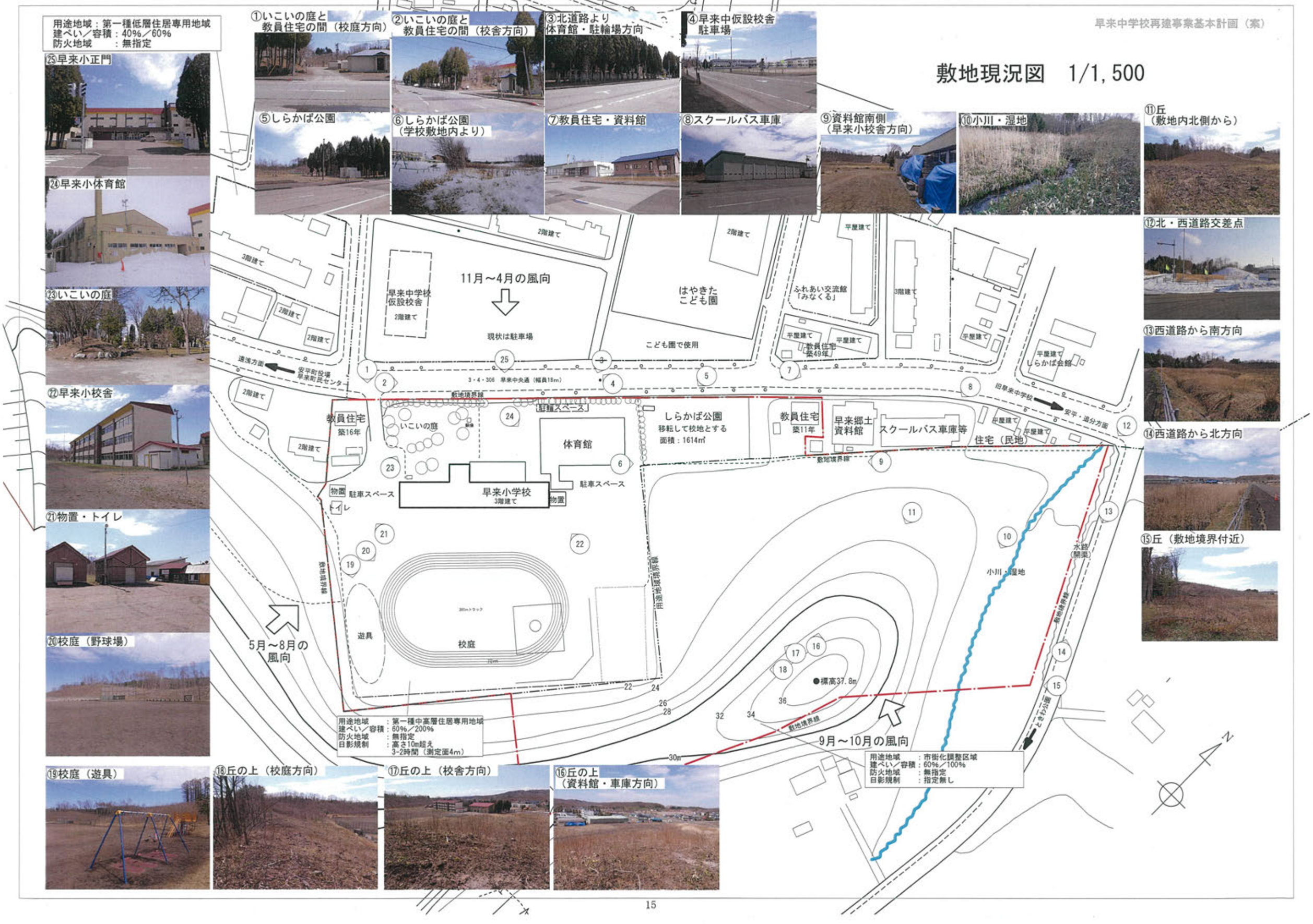
３－３．事業スケジュール

事業スケジュールの概要を次に示す。

令和元年度	．基本計画・基本設計
令和２年度	．実施設計
令和３～４年度	．工事（開発・建築）・移転開校
令和４年度	．既存校舎解体工事
令和５年度	．校庭整備

敷地現況図　1/1,500

用途地域：第一種低層住居専用地域
建ぺい／容積：40%／60%
防火地域　　：無指定



４．計画目標

安平の子どもたち、町民みんなの居場所、活動場所となり、様々な交流を生み出す「みんなの学校」という基本コンセプトのもと、これまでに検討部会や考える会などで出された学校や地域に対するさまざまな想いや意見を受けとめ、具現化するために、目指す学校像、学校施設計画目標をまとめる。

４－１．目指す学校像

・　学校教育の場として子どもたちの成長を支えるとともに、いつでも子どもたちや町民の居場所、活動場所となる学校を目指します。それは夜も活動場所の光が町を照らし、学校を支える人々を招き入れる学校です。

・　図書館、体育館、多目的ホール、特別教室等、地域利用が想定される諸室・スペースは、そこで活動する喜びが感じられる空間・設備を備えたものとし、それが学校教育の充実にもつながるようにします。

・　そのためにはセキュリティの確保、利用時間調整を含めた施設全体の管理運営、エネルギー管理等が、学校に過度な負担をかけることなくできる配置と情報システムを備えた学校とします。

・　小学校と中学校が一体の施設となる条件を生かして、９年間を見通した指導ができ、また単独校では得られない充実した教育環境を実現します。

・　集団活動の機会等、小規模校の課題を克服する一方、少人数の長所を最大限生かす教育方法、施設充実の可能性を追求します。そのためにはインターネット環境やデジタル技術を最大限生かし、町内、国内さらには外国の学校と交流し、みんなで協同して作ったり、課題に取り組んだりする喜びが実感できる学校とします。

・　閉鎖的な教室ではなく、教師の協働体制のもとクラスや学年を超えた活動がいつでも展開できるよう、ゆとりある教室空間（Pod と呼びます）が連続的に配置される学校空間を目指します。

・　この教室空間（Pod）は充実した ICT 設備を備え、また教材や学習成果物が用意された博物館やギャラリーのような環境です。子どもたちが能動的、自律的に学習に向かう姿勢を育てます。

・　図書館を学校の中心と位置付け、本の世界に遊ぶ子どもたちの居場所、小学生と中学生の交流場所とします。また図書館とコンピュータを関連付け、ICT 化して学習情報センターとします。さらに学校全体が図書館・学びの場となる学校空間を目指します。

・　体育館は授業時数に対応できる施設構成とし、それぞれ特色あるものとします。運動だけでなく、観戦・行事・集会・発表・公演等、多目的な利用に応えられるような施設・設備とします。

・　町及び学校の教育目標の共通理解の上に立って、小学校と中学校の教職員が協働して子どもたちを育てる学校組織を備えた学校を目指します。そのためには教職員スペースを校務センターとして充実し、リフレッシュや作業の場となる教職員コモンスペースを設けます。

・　学校施設が住民の活動場所、コミュニティづくりの核となるよう、地域利用が想定される図書館、体育施設、多目的ホール、特別教室、屋外運動施設等は、地域利用とセキュリティ確保がしやすい配置、特色ある施設とし、そのことが学校活動の充実にもつながるように考えます。

・　また、コミュニティ・スクール、保護者、地域住民が教職員と力を合わせて子どもたちを育てる“チームあびら”の活動交流拠点を、校務センターと連携しやすいように設けます。

・　配置計画にあたっては、敷地内の小川、丘、林等、豊かな自然と特色ある地形の特長を生かし、また郷土資料館等の隣接する施設と連携して、子どもたちが様々な体験ができる学校環境とします。それは、この場所ならではの、子どもたちが誇りに思える学校となります。

・　屋外運動施設は学校と地域のこれまでの利用状況を踏まえた構成とします。また小中一体の学校施設となることを生かし、それぞれにとって活動の幅を広げる施設種類、面積、形状を確保し、安全性に留意してゾーニング配置を行います。

・　将来の児童・生徒数の変動、教育方法の変化、ICT 技術の進歩等に対応できる柔軟性を備え、維持管理しやすい施設・設備の計画により、長寿命な学校を目指します。

・　省エネルギー、再生可能エネルギーの活用等により、地球環境に優しい、また施設・設備自体が環境教育の教材として生かせる施設・設備・システムとします。

４－２．施設計画の目標

○　いつでも子どもたち、地域住民に開かれた施設配置

・子どもたちが気持ちよく安全に登下校できるアプローチ空間とする。
・アプローチ空間は、登下校時の安全確保や冬季の除雪など維持管理に留意する。
・利用者が足を向けやすい施設配置、人を迎え入れる雰囲気のあるアプローチやエントランスをつくる。

○　のびのびと様々な活動ができる屋外環境

・成長段階の異なる児童生徒が安全に安心して遊び、運動できる屋外運動場、遊び場とする。
・丘や小川、森などの立地の特長を生かし、様々な体験や教育活動ができるようにする。
・周辺の運動施設と連携し、様々なスポーツや屋外活動に取り組めるようにする。

○　児童生徒や町民の誇りとなる建物

・地域のシンボル、子どもたちや地域住民の誇りとなる建物デザインとする。
・木材を積極的に活用し、子どもたちや町民を温かく包み、愛着を高める建物とする。

○　すべての人にとって学びやすく使いやすい施設

・年齢や発達度の違う児童生徒、障がい者、高齢者など、様々な利用者が負担なく使用でき、共に学び、活動できるバリアフリー環境を整える。
・様々な困難を抱えた子どもたちの学校生活を保障し、インクルーシブ教育を進めやすいよう諸室や多目的トイレの配置に配慮する。
・防犯対策を整え、児童生徒や町民が安心して過ごせる校舎とする。

○　能動的・主体的な姿勢を育て、協同的・対話的な学習形態をとれる教室空間（Pod）

・教師の協働体制のもと、多様な学習方法、学習形態に対応できる柔軟な教室空間構成とし、クラスや学年、学校、国を超えた交流活動に取り組めるようにする。また、学級数の増減にも柔軟に対応できるようにする。
・IT・デジタル技術やインターネットなどの双方向通信技術を活かせる環境を整える。
・教科担任制をとる中学校では、教科ごとに教科の魅力を活かして学習への興味・関心を高めながら教科学習の充実を図ることができる運営方式を採用し、教育空間を充実する。

○　小規模校の長所を生かし、課題を克服して充実した活動ができる実験・実習スペース

・特別教室にオープンスペースを組み合わせ、教室単体では行えない活動を生み出し、また移動してきた子どもたちが学習の狙いや魅力を感じられるようにする。
・小学校と中学校、学校と地域で、図書館・体育館・特別教室等の共用を図ることにより、充実した施設を実現する。
・学校内に学年間、小学校と中学校、学校と地域等、様々な交流、ふれあい空間を用意する。

○　子どもたちと地域住民が共に図書に親しみ、交流できる学校図書館

・本に親しみ、インターネット情報も利用できる居心地のよい図書館とする。
・休日にも開かれ、子どもたちや町民の居場所となり、交流を生み出す図書館とする。

○　コモンスペースをもつ充実した校務センター

・教師同士が座席にとらわれずに情報交換、打合せ、作業、教材製作等ができ、またリフレッシュできるコモンスペースを確保する。
・ICT を活用し、校務が効率的に行える執務作業環境とする。
・地域や遠隔地の学校や人材との協働などを促進できるネットワーク環境を用意する。
・小中学生の心身の発達段階の違いに配慮し、健康教育の拠点となる保健室をつくる。

○　地域に開かれた学校

・安平町の歴史文化財を活かし、ふるさと教育に資する施設環境を整える。
・図書館、体育施設、多目的ホール、特別教室、屋外運動施設等は、地域利用を想定して施設の充実を図るとともに、セキュリティ確保がしやすい配置とする。
・保護者・PTA、地域住民、ボランティアと学校の連携を支援するスペースを設ける。
・学校専用スペースと地域開放施設は、お互いの活動の様子が見えるようにする。また、学習活動や交流給食・食育活動を積極的に行い、自然な交流が育まれるようにする。
・体育館は行事や式典、学習成果の発表活動や芸術文化の鑑賞等にふさわしいホール機能と空間を備えたものとする。

○　地域の安全・安心を支える学校づくり

・災害に強く、季節や時間帯に関わらず発生する災害に対し、避難拠点として学校と町民の安全・安心を支える校舎をつくり、有効利用できるようにする。
・主たる避難場所・避難所となる体育館を中心として、避難所機能を高める付帯施設を確保する。
・避難所機能を日常的な地域活動の場と重ねることで、施設の使用方法を共有するとともに適切な維持管理を行い、緊急時の利便性を確保する。

○　地球環境に優しい学校づくり

・気候風土を踏まえ、厳しい自然環境の中で快適に過ごせる環境とする。
・環境負荷を低減し、自然との共生を目指す学校施設を整備する。
・敷地の自然環境を活かし、快適で健康的、かつ省エネルギーな学校施設とする。

○　長寿命な学校づくり

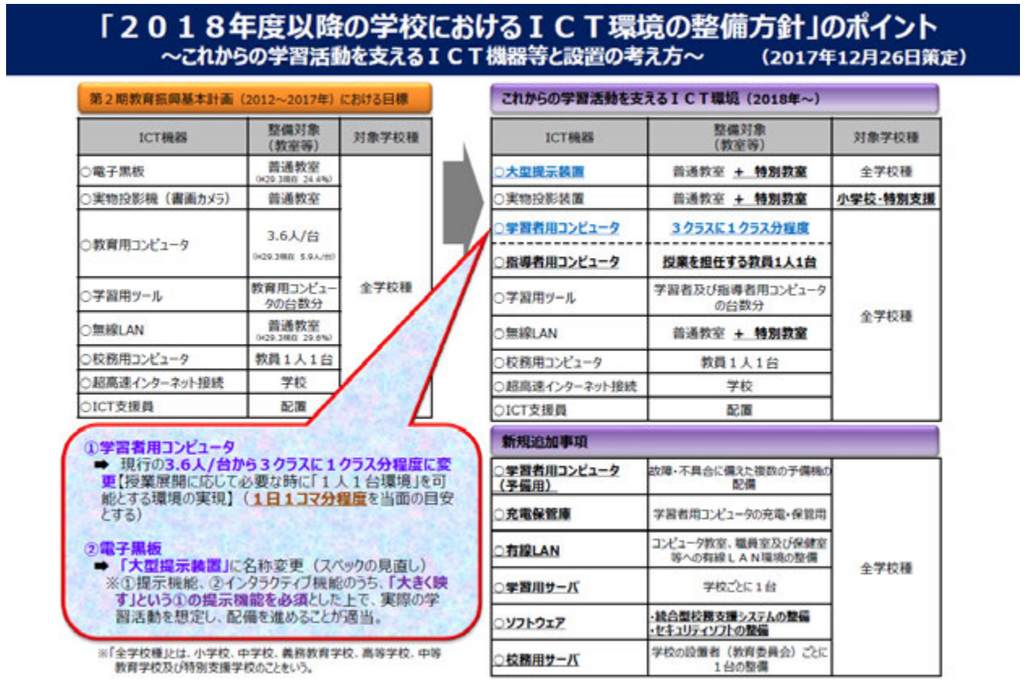
・維持管理しやすく、永く愛され、大切に使い続けられる施設とする。
・設備等が更新しやすく、将来の用途転用にも対応しやすいフレキシビリティを確保する。

４－３．ICT 環境のあり方

これからの学校づくりに欠かせない課題である ICT 環境のあり方についてまとめる。

（１）2018 年度以降の ICT 環境の整備方針（文部科学省）

文部科学省が示している ICT 環境の整備方針を示す。本計画においても、最低限、これらを踏まえると同時に、将来の発展性に備える必要がある



（２）新しい学校の ICT 環境の考え方

本計画では、将来の発展性を備えた基幹ネットワークを構築するとともに、新しい学校づくりの基本コンセプトや施設計画の目標を実現するために、ICT、更には、IoT の技術を積極的に活かす。活用の視点を次に示す。

〇安平町が抱える学校教育の課題に応える ICT

・へき地小規模校の課題を解決する

・・・町単位における専科等の教員の柔軟な配置や遠隔授業の導入

・多様な価値観を持つ教育人材登用に資する

・・・世界と交流できるビデオ会議システム、Web を介したゲスト Teacher の招聘

・豊かな体験活動を支える

・・・３D スクリーン、大型モニター、プロジェクションマッピング、バーチャルリアリティ等の活用

〇児童生徒の多様化に対応した学びを支える ICT

・一人ひとりの確かな学びを支える

・・・学びの履歴（ポートフォリオ）を活かした個別対応、障がい対応、不登校対応

・ICT リテラシーを高める

・・・プログラミング教育に資する教材開発と蓄積・人的支援

〇教職員の働き方改革を支援する ICT

・現状の課題に応えられる校務支援システムの導入

・・・カリキュラムマネジメント　→現状分析に基づくシステムの最適化

・管理事務支援システム

・・・施設管理、点検の効率化、スマートロック

・現業事務支援システム

・・・事務の共同化（効率化）、ペーパーレス化、Web 発注システム

〇地域連携・学校施設開放を促す ICT

・誰もが分かりやく使いやすい予約システム

・・・Web 等の活用　→開放管理対応に関する学校負担の解消

・学校と地域双方の利便性を高めるシステム導入

・・・学校図書館運営システム（蔵書管理・排架の効率化・タグ）、スマートロック等

〇防犯・安全対策に資する ICT

・不審者対応など防犯システムの構築

・・・ICT・IoT 技術と人的対応の融合

・児童生徒・地域開放利用者の個人情報管理システム

・・・成績（学校）や貸出（図書館）などのデータベースの情報漏えい防止システムの構築

〇施設維持管理・省エネ対策に資する ICT

・施設修繕を効果的に実行できる維持管理システム

・・・施設点検に基づく老朽状況のデータベース化と費用試算

・消費エネルギー解析に基づく自己最適化システム

・・・省エネ対策の AI 利用、ネットワークを介した教育委員会事務局での一元管理

４－４．避難拠点のあり方

本計画は、平成 30 年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震による被災からの学校の復興計画である。新しい学校施設は避難拠点の一つとして、地域の安全を支えることが求められる。

ここでは避難拠点の基本的な考え方をまとめる。

（1）基本的な考え方

・早来地区の避難者を中心として 300 人程度の避難者数を想定する。

参考．3.3 ㎡/人×300 人＝990 ㎡　≒今回の大アリーナの想定面積

・性別や乳幼児・妊婦・ペット同伴者など、多様な避難者に対応できるように、体育館以外の複数の避難所を確保する。

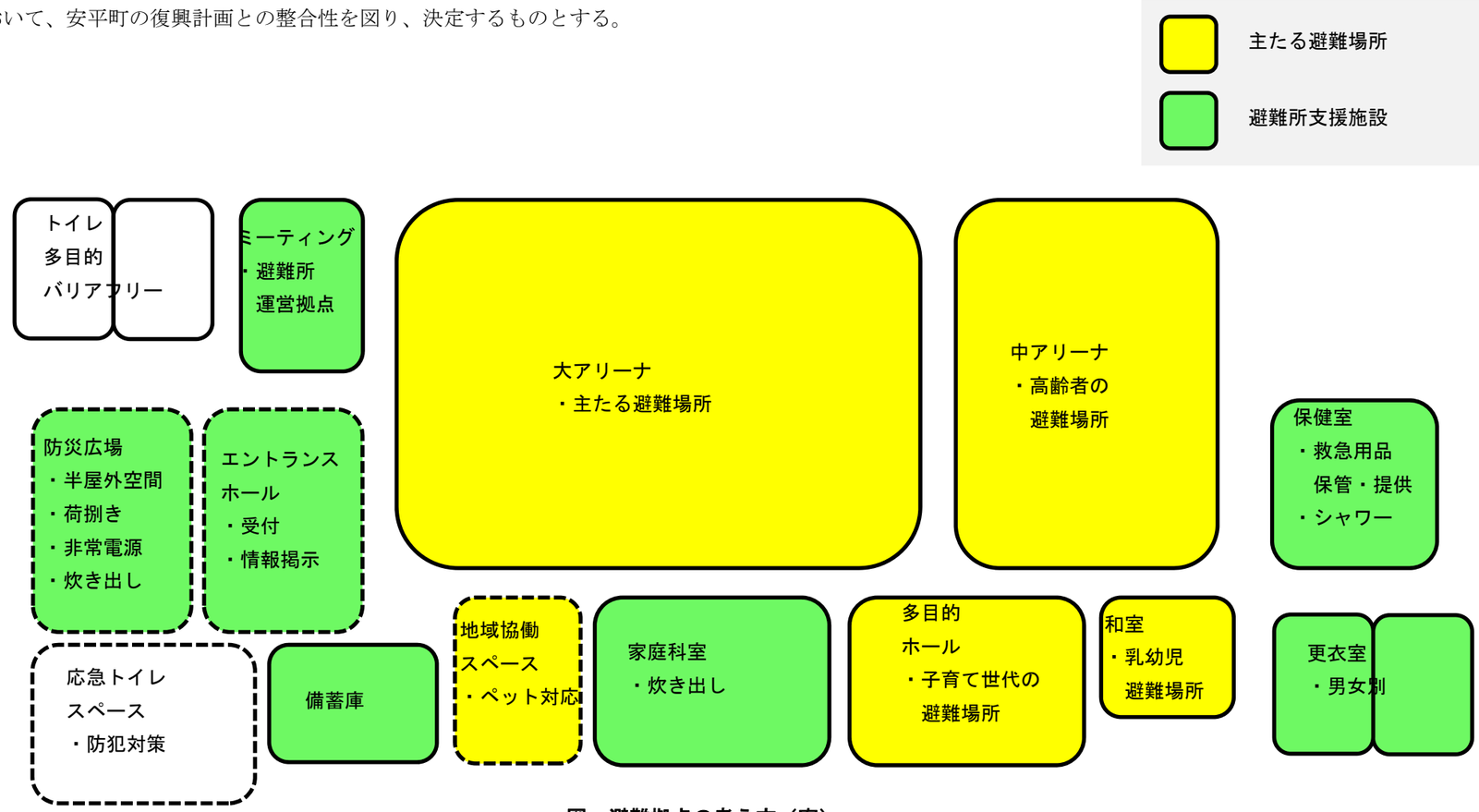
・受付のほか、災害状況や安否確認などを伝える災害情報拠点となるホールを設ける。

・避難所運営拠点となる会議室等を設ける。

・災害支援物資の荷捌きや非常電源装置を設置できる屋外スペースを設ける。

・災害用備蓄庫を設ける。安平町の備蓄計画を踏まえた広さを確保する。

・なお、設計段階において、安平町の復興計画との整合性を図り、決定するものとする。



図．避難拠点の考え方（案）

５．基本計画

５－１．各室・各ゾーンの考え方

各室・各ゾーンの考え方をまとめる。

（１）運営方式

・学級担任制の小学校の教室は普通教室を持つ特別教室型、教科担任制の中学校の教室は教科教室からなる教科センター方式とすることを検討する。
・小学校は普通教室、中学校は教科教室をホームルームに割り当てる。
・中学校は、クラス専用の場、ロッカースペースとして、ホームベースを用意する。

教科教室まわり
教科専用の学びの空間

ホームベース
クラス専用の生活空間

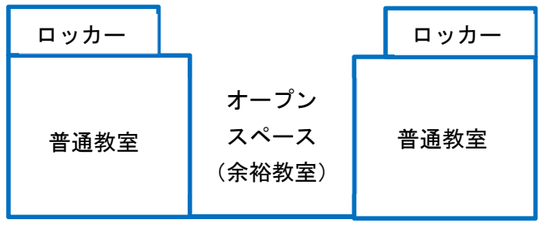
（２）教室・教室まわり

・学年（40 数名）１～２クラスに対応できる教室計画とする。
・教室は多様な活動が展開しやすく、クラス数増があった場合に対応できるようにする。
・学習スペースとは別に、持ち物スペースを確保する。
・特別支援学級については、人数に応じた広さを持つ複数の教室と多目的スペースを組み合わせる。

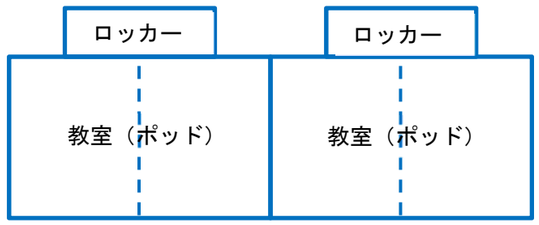
・小学校の教室まわりの構成については、いくつかのタイプが考えられる。
その１：低学年中学年高学年のまとまりで、普通教室に教室転用可能なオープンスペース（以下、OS）を組み合わせる。
その２：OS を取り込んだ広さを持つ教室（普通教室と分けるために教室ポッドと名付ける）を組み合わせる。

その１は２学年で OS を共有するため、OS を日常的に活用した教育方法に取り組む場合は２学年の綿密な連携を前提とする。また２学年連続で学級増となった場合には対応できない。その２はゆとりある面積を活かした教育方法に日常的に取り組みやすくなる可能性がある。学級増の場合は可動間仕切で２つに分けることが考えられるが、間仕切りの納まり等の設計上の工夫を要する。

基本設計においては、安平町の目指す教育を実現するためにはどちらをベースとして検討すればよいか両者を比較し、総合的な判断で決定することが求められる。



図．教室ユニット（小学校）の構成例　その１



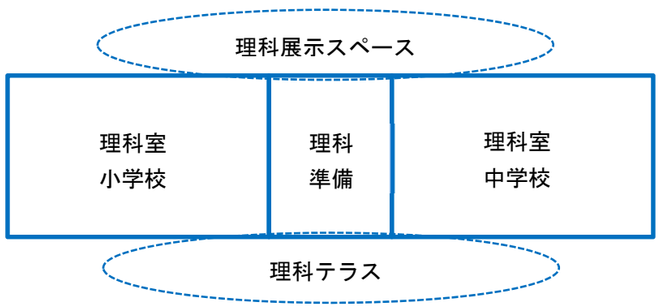
図．教室ユニット（小学校）の構成例　その２

（３）学校図書館

・読書センター・学習センター・情報センターとして、充実した面積を確保する。
・公民館図書室の機能を移転し、地域住民にとっての読書・情報センターとすることを検討する。

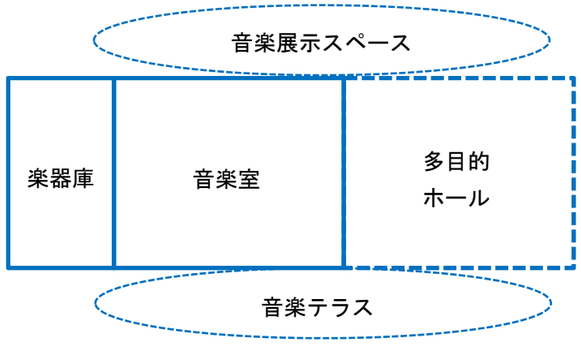
（４）特別教室

・理科室は小中別々に確保する。準備室は小中共用とする。



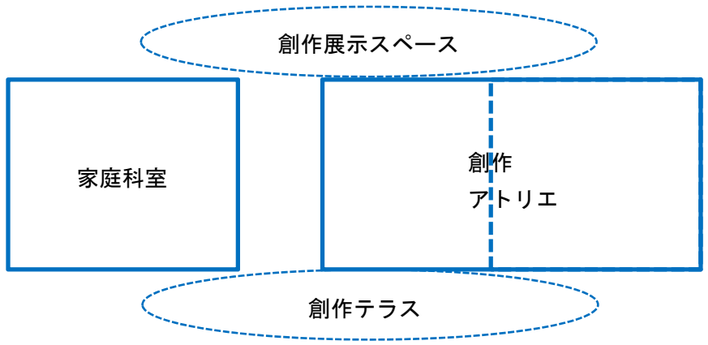
図．理科室の構成

・音楽室は１室とし、多目的ホールを組み合わせる。



図．音楽室の基本構成

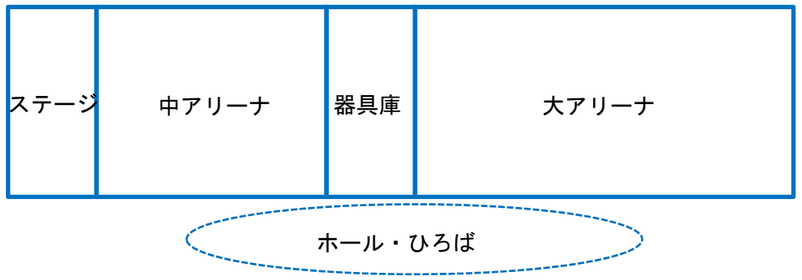
・図工、美術、技術は創作アトリエとして広く一体的に計画し、その中で独立して授業ができるようにする。



図．創作アトリエの基本構成

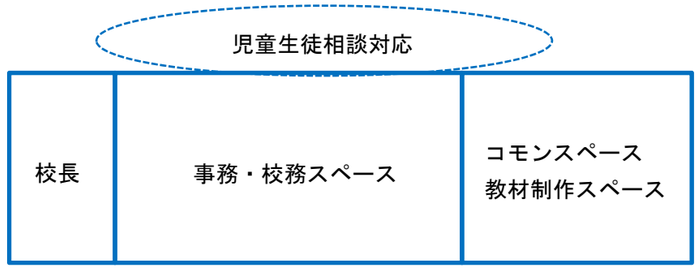
・特別教室まわりには、教材や学習成果物を展示し発表できる場や、屋外で活動できるテラスなどを設ける。
・音楽室や家庭科室、創作アトリエは地域利用を想定する。

（５）体育館
・大小２つのアリーナを確保する。
・１つはステージを設けて講堂的機能を確保する。
・地域体育館の機能も担えるようにする。



図．体育館の基本構成

（６）教職員スペース
・事務・校務スペースは小中一体とする。
・校務スペースに隣接して、情報交換・作業・打合せ・リフレッシュスペースの場となるコモンスペースを設ける。
・印刷スペースを含めた教材制作・カリキュラム研究スペースを設ける。
・校務スペースの前には、児童生徒の相談の場を設ける。



図．教職員スペースの基本構成

（７）保健室
・保健室は小中一体とする。内部の構成は成長段階を考慮したものとする。
・保健室には相談室を隣接する。

（８）地域・学校協働スペース
・町民やボランティア等の支援者が日常的に学校で活動することができるスペースを設ける。
・リラックスできるインフォーマルな交流空間とする。

５－２．室・面積構成表

室・面積構成表を示す。校舎については、廊下等の面積を全体面積の 30%程度見込んでいる。体育館の廊下等の面積については全体面積の 15%とした。
合計面積が目標とする計画面積を超えているが、積み上げによる面積であるため、平面計画を工夫することで計画面積の範囲内に納めることが求められる。

注）OS：オープンスペース、MS：メディアスペース

種別	室・スペース 大分類	中分類	小分類	単位面積	室数	計	備考
校舎	小学校	教室まわり	学習スペース（教室＋OS）	100	6	600	ホームルーム
			ロッカーコーナー	20	6	120	40人×0.5㎡
			教材準備	10	3	30	2学年に1箇所
		特別支援	特別支援教室	20	3	60	一体的に計画
			多目的スペース	30	1	30	
			多目的トイレ・シャワー	10	1	10	
			教材準備	10	1	10	
	中学校	教室まわり	国語（教室＋MS）	100	1	100	ホームルーム
			英語（教室＋MS）	100	1	100	ホームルーム
			社会科（教室＋MS）	100	1	100	
			数学（教室＋MS）	100	1	100	ホームルーム
			教材準備	10	4	40	4教科
		生活拠点	ホームベース	40	3	120	学年の生活専用スペース、学年（クラス）掲示
		特別支援	特別支援教室	20	3	60	一体的に計画
			多目的スペース	30	1	30	
			教材準備	10	1	10	
	共通	学校図書館		400	1	400	公民館図書室機能付加検討
		交流スペース	多目的ホール	120	1	120	交流給食、音楽活動
			地域協働スペース	40	1	40	ラウンジ機能
		特別教室	理科	110	2	220	小学校・中学校
			理科準備	50	1	50	
			創作アトリエ	200	1	200	図工・美術・技術　2展開可能
			創作アトリエ準備	50	1	50	
			家庭科	120	1	120	多目的ホールと組み合わせを検討
			家庭科準備	20	1	20	
			音楽	110	1	110	多目的ホールと組み合わせを検討
			音楽準備・楽器庫	50	1	50	
		特別活動	和室	20	1	20	家庭科室や多目的ホール等と組み合わせを検討
			児童会・生徒会	20	2	40	
		生活スペース	児童生徒玄関ホール	100	1	100	風除室設置、分散可
			児童生徒用トイレ	50	3	150	男女別、多目的トイレ
			配膳	60	1	60	
		保健・相談	保健	80	1	80	
			相談	20	1	20	
		管理諸室	校長	40	1	40	応接
			事務・校務	100	1	100	30人×3㎡
			職員コモン	40	1	40	給湯、作業、打合せ、ラウンジ
			印刷	30	1	30	
			授業・教材研究	30	1	30	
			会議	60	1	60	40人×1.5㎡、職員会議、保健体育等の一斉指導スペース
			職員・一般用トイレ	20	2	40	男女別・多目的トイレ
			用務作業	30	1	30	
			職員・一般玄関	30	1	30	受付
			学校用備蓄庫	30	1	30	
			職員休憩	10	1	10	畳コーナー
			職員更衣	20	2	40	教職員用、男女別
	室面積　合計					3,850	
	廊下・階段・機械室・倉庫等の面積					1,648	床面積の30%　→プランの工夫で削減
	床面積					**5,498**　㎡	計画面積　5,300㎡
体育館	アリーナ		大アリーナ	1000	1	1000	バスケ2面（14m×24m）、正規バスケ1面（15m×28m）
			中アリーナ	350	1	350	講堂（400人程度）、バレーコート1面
			ステージ	90	1	90	中アリーナ、放送機材・舞台備品置き場、ピアノ庫含む
			器具庫	60	1	60	
	付帯施設		更衣	20	2	40	学校と地域兼用
			体育準備	20	1	20	避難時は指令室
			トイレ・流し場	20	2	40	集中利用を考慮、多目的トイレ
			備蓄庫	30	1	30	地域用
	室面積　合計					1,630	
	廊下・機械室等の面積					288	床面積の15%　→プランの工夫で削減
	床面積					**1,918**　㎡	計画面積　1,900㎡

５－３．施設構成の考え方

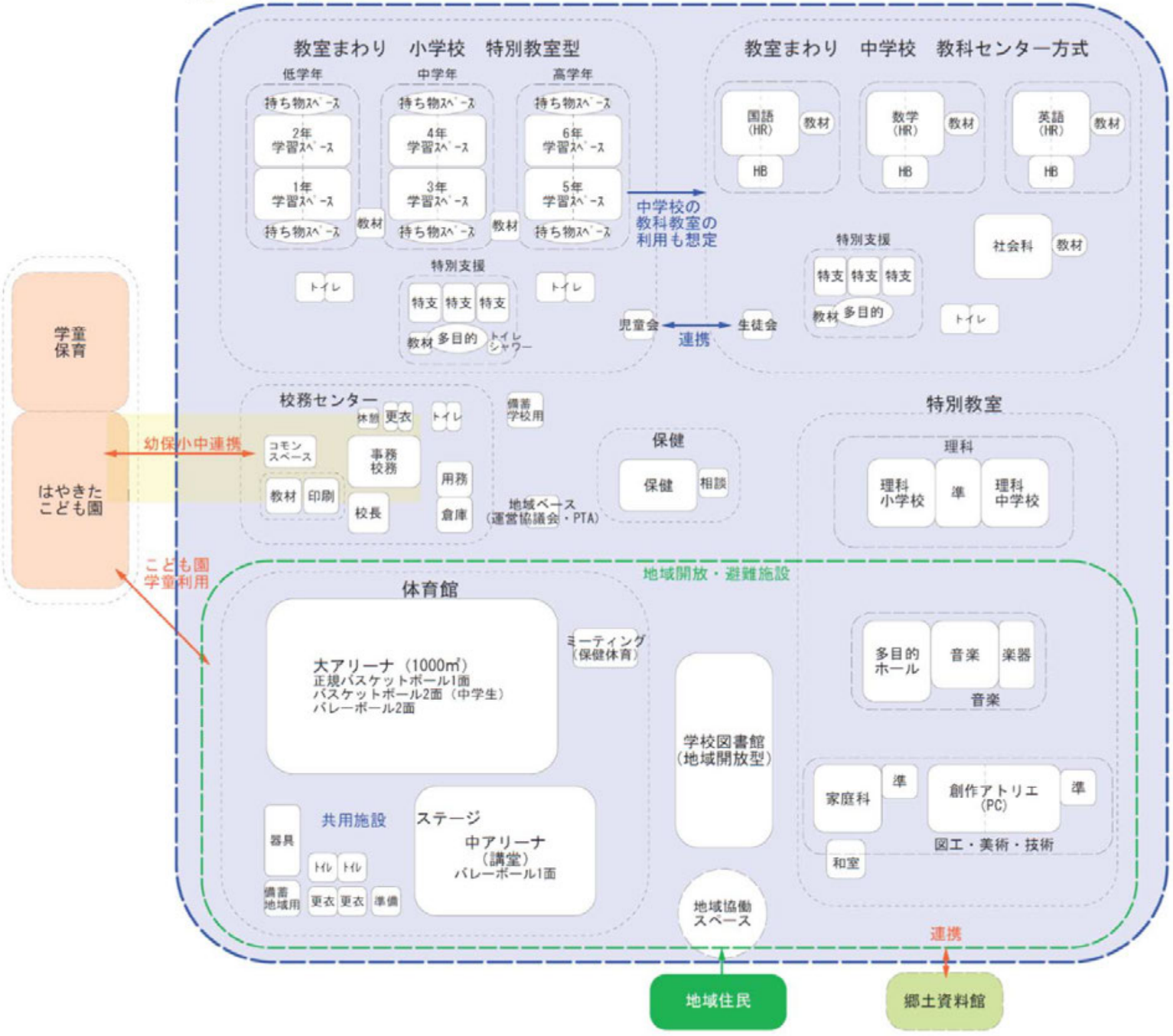
施設構成の考え方をダイヤグラムとして示す。

はやきたこども園との連携は、園児を対象とした体育施設や学校図書館の施設開放利用や放課後子ども教室の場として学校施設を活用することが考えられる。

郷土資料館との連携は、豊富な資料を活かした郷土学習のほか、地域の歴史や風土を伝えるボランティア団体の展示スペースとして学校施設の一部を利用することなどが考えられる。

このほか、ときわ公園や町民センターなどの周辺公共施設との連携を高め、施設の相互利用などを図ることを検討する。

<ダイヤグラム>



５－４．配置計画

（１）計画条件

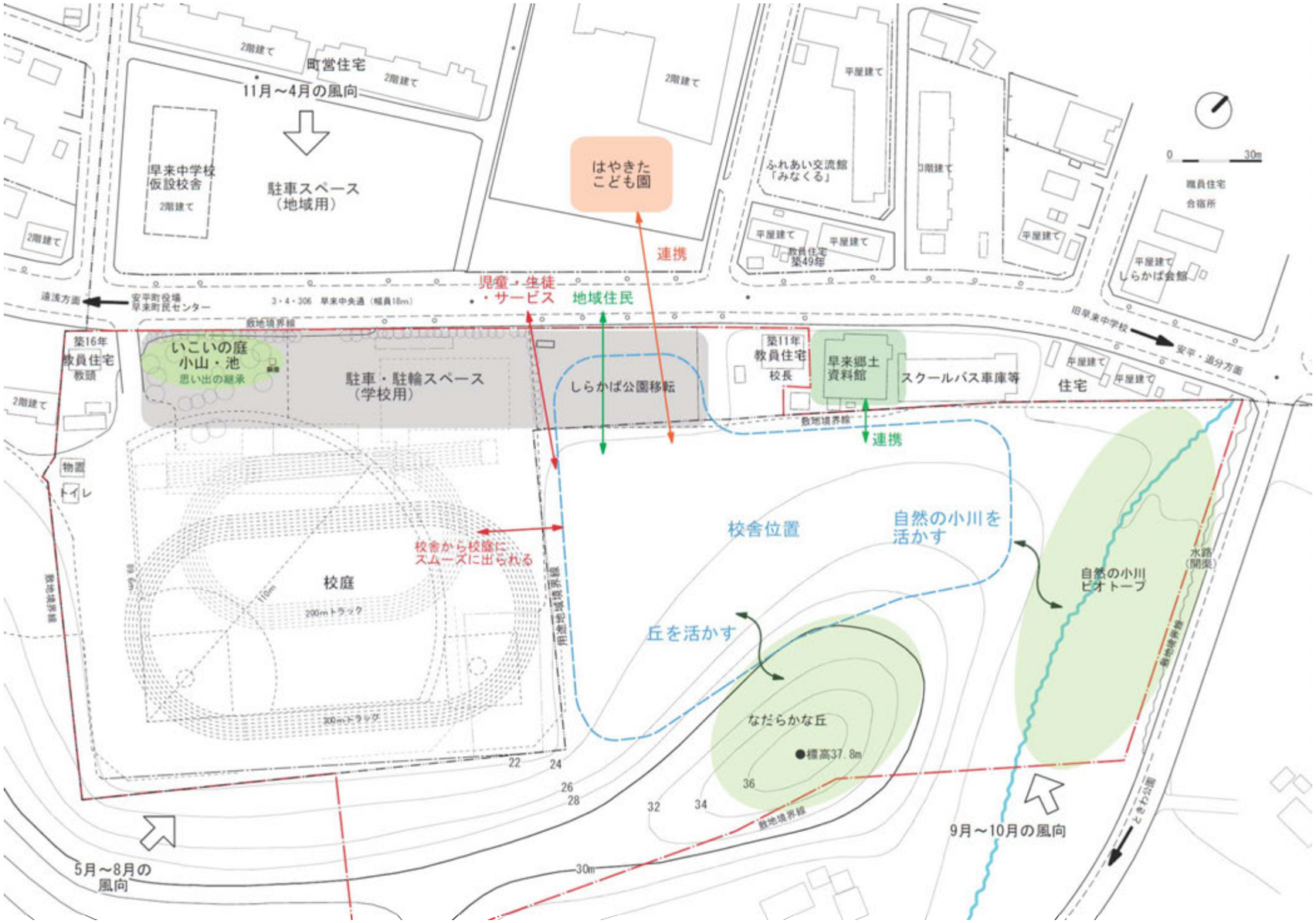
○校舎等の配置
・校舎等は新敷地に配置する。
・都市計画公園（しらかば公園　約 1,600㎡）は移転し、跡地を校地として利用する。
・新敷地の丘や小川などの自然環境を計画に活かす。

○アプローチ
・全てのアプローチ動線（学校・地域・サービス）は基本的に早来中央通から確保する。

○校庭
・300m トラック、100m 直線路が入る広さとする。
・テニスコートは２面以上確保する。
・野球場は中学生練習用とスポーツ少年団用の内野を別々に確保する。
・安全な遊具スペースを確保する。
・現在の「いこいの庭」は、早来小学校の思い出を伝える場として活かす。

○駐車場・駐輪場
・駐車場はバリアフリーに配慮し、教職員用のほか、来客用と地域利用者用を確保する。
台数は基本設計で設定する。
・駐輪場は児童生徒用と地域利用者用を確保する。
台数は基本設計で設定する。

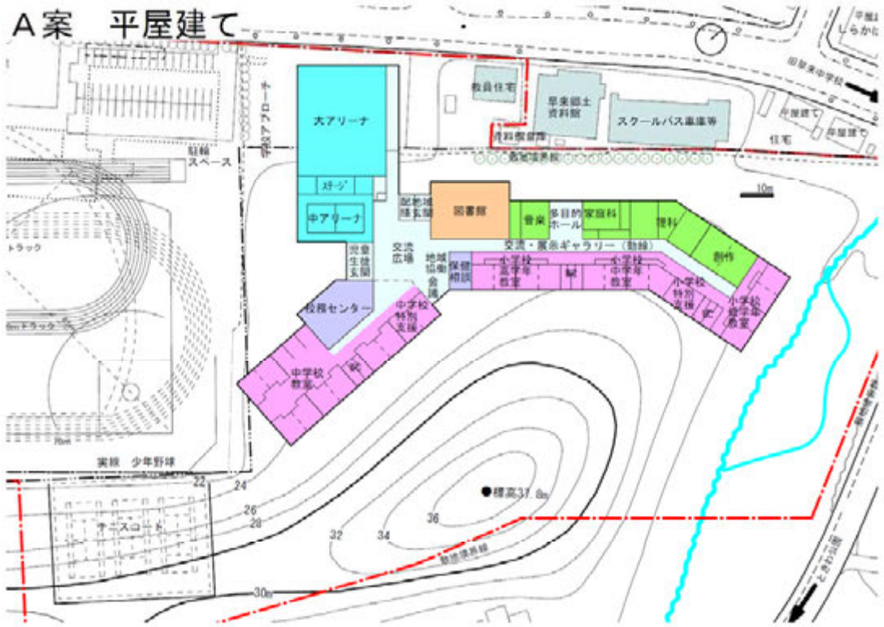
なお、基本設計で事業費や法令条件、教育的要求などを踏まえて再検討する。



図．校舎等の配置の考え方（案）

（２）配置・平面検討案

考える会等で示した校舎等の配置・平面検討案を参考として示す。

共通の考え方

○開放施設を道路側に配置し、「学校の顔」をつくる
○１階に地域利用施設を配置する
○地域玄関から南側の丘に空間が抜けるようにする
○小学校と中学校の教室ゾーンをゆるやかに分ける
○特別支援学級は普通学級と行き来しやすい場所とする
○管理諸室は校庭やアプローチが見える場所とする